

第
50
回

時を越え
新たな絆
今ここに

旭川北高等学校同窓会

旭川市中・市高 北高同窓会 総会・懇親会

と き／2015年8月8日(土)午後6時より

ところ／旭川グランドホテル 3階グランドホール【旭川市6条通9丁目】



市中



市高



北高

主催／第50回旭川北高等学校同窓会実行委員会
写真／東川町 大塚 友記憲

校 歌

明るく普通の速さで

mf

1.あ た ー ら し ー き ぶ ん か り ー の は な の さ
3.か た ー わ し ー き み ど り ー の ゆ う の べ は

pp

ん く ー ら ん と の や が て か お ら む み
く ー よ う の き ば な さ く あ む さ ま

p

ず ー き ー よ ー く や ま ー む ら さ き ら に め
ゆ ー ひ ー い ー で た ま ー す む こ ら が ま

f *allargando* *a tempo*

ぐ ー り ー た ー る ま な び の に わ よ あ
ど ー い ー し ー て ほ な れ を う た う み

f

ふ る る よ ろ こ く び の い ざ く て て を と り て や
よ る み よ そ こ く の ゆ く て は と ら た や

ff

む な き ー あ ゆ み に ま こ と り を と め む
む な き ー の ぞ み に ひ か と り を と え む

校 歌

木村五一 作詞
津田 甫 作曲

一、
あたらしき文化の華の
燦爛とやがて薫らむ

水清く山紫に
めぐりたる学びの庭よ

溢れる歓喜いざ手を把りて
止むなき向上に真理を尋めむ

二、
逞しき腕の力は
遠つ代の祖に承けたり

汗あゆるその勤勞の
成せる郷土豊けき穰
とこしへ栄行くこの世に生きて
止むなき教養清純を讃めむ

三、
かぐはしき緑の夕
白瑤の樹氷咲く朝

眉秀で魂澄む子等が
まどろして誉を謳ふ
見よ見よ祖国の前途は新
止むなき希望に光明を添へむ

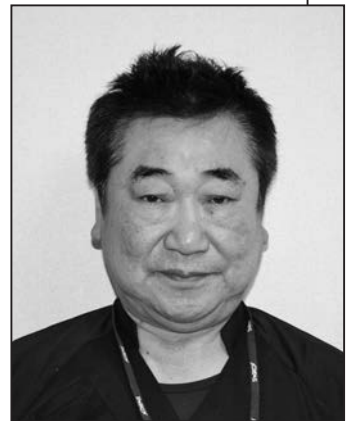
2015

時を越え
新たな絆
今ここに



01	同窓会長あいさつ
02	学校長あいさつ
03	平成26年度会務・会計報告
04	同窓会規約
05	札幌・東京同窓会から
06	第39期恩師の近況
09	北高の今
13	特集「同窓生の活躍」
27	招待期
28	同窓生から
31	今春の進路状況
32	北高NOW（部活動報告）
37	同窓会役員及び幹事
39	実行委員長・次期当番期あいさつ

第50回の同窓会総会を迎えて



北海道旭川北高同窓会長

(北高25期) 尾崎 信彦

会員の皆様お元気ですか。北高25

期の尾崎です。早いもので本年の8月で1期2年が終わろうとしております。1期2年目の本年は節目の第50回の同窓会総会となっております。

North Windにも書きましたが、私の世代になりますと、先輩達がどのような経緯で同窓会を創られたのか、わからない事が多く、あらためて大先輩からお借りした資料で少しわかったのは、北高には、市中、市高、北高と変化した特殊な時代背景があるということです。

今年のキャッチコピーは、『時を越え 新たな絆 今ここに』です。まさに、戦前、戦後そして昭和から平成へ、20世紀から21世紀へと時代が移り変わっても、我が北高同窓会の会員の絆は、今も強固にあると言

っていると感じられました。

今回の節目の総会と懇親会は、実行委員長の水口さんをはじめとする北高39期の皆さんにお願いいたしました。会が盛大に開かれ成功裏に終わることを御祈念申し上げ、宜しくお願い致します。

本年の同窓会は、創立50周年の節目にあたりますので、記念講演を考えており、私の大学の後輩で、北海道深川市出身で女子プロレスのジャガー横田さんのご主人でもある木下先生にお願いいたしました。恐らく楽しいお話を聞けると思います。そして、同窓会総会並びに懇親会において、より一層絆を深めてまいりたいと考えております。

しかし、近年若い期の会員の参加が少なくなっており、また若い期の

幹事長の所在が不明であったりしており、伝統ある我が旭川北高同窓会の存亡の危機と考えております。

そこで同窓会広報活動としてネットワークの充実が急務と考え、ホームページを立ち上げました。このホームページをご活用いただくことにより、より一層同窓会活動が活性化され、益々発展していくものと確信しております。

70数年の母校の歴史と伝統を発展させ、次の世代に伝えていく事が同窓会の使命と思っています。今後同窓会会員皆様のご健勝とご活躍を心より祈念し、私のご挨拶と致します。

第50回総会 おめでとうございます



北海道旭川北高等学校校長 中 田 伸 次

同窓会の皆様には、学校に対して日ごろから多くのご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。また、記念すべき第50回の同窓会総会が開催されますことに心からお祝いを申し上げます。諸先輩が営々と築いてこられた北高同窓会の歴史に、「半世紀の時を越える」という新たな歴史が加わることは大変意義深いことだと感じております。第50回総会を契機に、今後ますます同窓の絆が深まり、北高同窓会の次の半世紀がさらに輝きを増されることをご祈念申し上げます。

さて、学校の近況ですが、今年度の生徒在籍数は全日制720名、定時制58名です。全日制は昨年度と変わりありませんが、定時制は10名ほど減少しています。これは今年度の入学生が14名と定員の半数以下とな

ったためです。旭川市内の中学生の減少傾向は今後も続いていきますので、定時制では来年以降の入学者数の推移を注視していかなければならないところです。また、平成29年度に全日制が一学級増えると昨年ご報告をしましたが、これは単年度で終わり30年度には今と同じ6学級に戻ることになりそうです。

生徒の様子は、相変わらず落ち着いて、充実した学校生活を過ごしています。全日制では、今春卒業生のちょうど半分の120名が国公立大学に合格しました。北海道大学も道内勢が苦戦する中で、13名の合格と健闘しました。京都大や筑波大、東京外語大など道外国立大にも52名の合格者が出ています。一方で、道内はもとより首都圏や関西圏の私立大にも数多く進学しています。

部活動の活発さも変わらず、今年度の部活動加入率も昨年度とほぼ同じ93%という非常に高い比率になっています。支部大会でもたくさんの部が上位入賞を果たすなど、部活動の面でもおおいに活躍しています。

また、定時制では、今春の卒業生も苦労しながらも全員が就職・進学目標を達成しました。部活動では定時制通信制体育大会で卓球とバスケットが全道大会、柔道が全国大会出場を果たしています。仕事と勉強の両立という厳しい環境ですが、4年間頑張り続けられるようサポートしていきたいと思っております。今後とも、同窓会の皆様、地域の皆様の期待に応えられるように教職員一丸となって頑張つて参りますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年度会務報告

平成26年

4月8日	入学式（尾崎会長）
5月10日	役員・幹事長会議～ポスター・チケット配布（旭川グランドホテル）
6月13日	会計監査
同日	第3回役員会（旭川グランドホテル）
7月5・6日	北高等学校祭（同窓会露店参加）
8月9日	第48回同窓会総会（旭川グランドホテル） ゴルフコンペ 学校祭収益金贈呈
9月27日	第1回役員会（旭川グランドホテル）
同日	当番期引き継ぎ会議
10月31日	札幌同窓会総会（尾崎会長他5名参加）
12月1日	同窓会入会案内配付

平成27年

1月31日	第2回役員会・各期幹事会・合同新年会（旭川グランドホテル）
2月28日	同窓会入会式（全日制：会長他2名・定時制：会長他1名）
3月1日	卒業式（尾崎会長他3名出席）
4月8日	入学式（尾崎会長出席）
5月16日	役員・幹事長会議～ポスター・チケット配布
6月25日	会計監査
同日	第3回役員会（旭川グランドホテル）
7月11・12日	北高等学校祭（同窓会露店参加）
8月8日	第50回同窓会総会・50回記念講演（旭川グランドホテル）・ゴルフコンペ 学校祭収益金贈呈
9月 日	第1回役員会（旭川グランドホテル）
同日	当番期引き継ぎ会議
9月26日	東京同窓会（銀座ライオンビル）14時～
10月2日	札幌同窓会34回総会（札幌ガーデンパレス）18時30分～
12月1日	同窓会入会案内配付

旭川北高同窓会平成26年度一般会計決算書

■収入の部

(単位：円)

区 分	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1 繰越金	709,552	361,690	▲ 347,862	
2 同窓会費	1,224,000	1,234,000	10,000	
①入会金	516,000	514,000	▲ 2,000	257名 × 2,000円
②終身会費	708,000	720,000	12,000	240名 × 3,000円
3 雑収入	125	217	92	貯金利子
合 計	1,933,677	1,595,907	▲ 337,770	

■支出の部

(単位：円)

区 分	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1 総務費	1,230,000	655,250	▲ 574,750	
①事務費	20,000	10,000	▲ 10,000	消耗品費
②会議費	300,000	225,000	▲ 75,000	役員会、幹事長会等開催費
③通信費	36,000	14,020	▲ 21,980	切手、はがき、電話
④印刷費	10,000	10,000	0	会議開催案内状等印刷費
⑤慶弔費	30,000	0	▲ 30,000	香典、生花、弔電
⑥支部活動費	430,000	179,500	▲ 250,000	札幌同窓会出席者旅費、活動助成金
⑦学校事務費	20,000	0	▲ 20,000	学校事務局謝礼
⑧後援会費	144,000	0	▲ 144,000	学校後援会費
⑨卒業記念品費	170,000	166,046	▲ 3,954	卒業生記念品
⑩後援会事業費	30,000	30,000	0	学校祭協力費
⑪雑支出	40,000	20,684	▲ 19,316	振込手数料、雑費
2 文化費	320,000	315,400	▲ 4,600	ノースウインド第22号印刷費、活動費
3 予備費	383,677	0	▲ 383,677	
合 計	1,933,677	970,650	▲ 963,027	

■支出決算

(単位：円)

収入額	支出額	残 高
1,595,907	970,650	625,257

残高625,257円は次年度へ繰越

■平成26年度特別会計決算書

(単位：円)

収入の部	支出の部	残 金
第49回総会準備金返還	300,000	第50回総会準備金貸付 300,000
北高第15期御祝儀（25名）	350,000	御招待者（北高15期生）会費 125,000
他 御祝儀	15,000	同窓会用テント 168,264
ストラップ販売（32個）	16,000	フリーカップ（陶器とガラスセット）作成50個 167,400
学校祭雑収入等	41,170	記念事業基金へ 200,000
貯金利子	167	
前年度繰越金	829,142	
合 計	1,551,479	合 計 960,664

次年度へ繰越
590,815

■同窓会資産

(単位：円)

累計額	平成26年度 積立額	平成26年度 支出額	合計累積額	摘 要
9,011,951	211	0	9,012,162	積立額は郵便貯金利子

■同窓会記念事業基金

(単位：円)

累計額	平成26年度 積立額	平成26年度 支出額	合計累積額	摘 要
2,054,474	200,483	0	2,254,957	積立額は郵便貯金利子と実行委員会より寄付

同窓会規約

北海道旭川北高等学校

同窓会規約

●第1章 総 則

第1条 本会は、北海道旭川北高等学校同窓会と称する。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて北海道旭川北高等学校の健全なる発展に寄与することをもって目的とする。

第3条 本会は、その事務局を北海道旭川市花咲町3丁目北海道旭川北高等学校に置く。

●第2章 事 業

第4条 本会は、その目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦を図ること。
- (2) 会誌及び会員名簿の発行
- (3) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業

●第3章 会 員

第5条 本会は、次の各号に該当する者をもって構成する。

- (1) 旭川市立中学校卒業生
- (2) 旭川市立高等学校卒業生
- (3) 旭川北高等学校卒業生
- (4) (2)(3)各号以外（転・退学した者）で、本会に入会を希望する者。

●第4章 顧 問

第6条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会において推挙する。

第7条 顧問は、役員会の諮問に応ずるものとする。

●第5章 役 員

第8条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|-------------|-------|
| (1) 会 長 | 1名 |
| (2) 副 会 長 | 若干名 |
| (3) 会 計 監 査 | 3名 |
| (4) 総務部長 | 1名 |
| (5) 総務副部長 | 若干名 |
| (6) 会計部長 | 1名 |
| (7) 会計副部長 | 若干名 |
| (8) 文化部長 | 1名 |
| (9) 文化副部長 | 若干名 |
| (10) 幹 事 長 | 各期毎1名 |

第9条 会長、副会長は、総会において会員の中から選出する。

- 2 会長は、再選を妨げない。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

第10条 第8条の役員のほか、各期各組から1名ずつ幹事を選出し、各期ごとに幹事長1名及び副幹事長2名を推薦し、会長はこれを委嘱する。ただし、定時制にあつては幹事長のみとすることができ。

- 2 幹事長は、同期を代表し、かつ統括する。
- 3 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはこれを代理する。
- 4 幹事は、各組の取りまとめにあたる。

第11条 会計監査は、総会において会員のなかから選出する。ただし、再選を妨げない。

第12条 会計監査は、本会の経理を監査する。各役員の任期は、2年とする。ただし、任期満了後でも後任者が決定するまでは、引き続きその任にあたるものとする。

●第6章 総 会

第13条 総会は、定例総会及び臨時総会とし、議決は出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは議長これを決す。

- 2 定例総会の開催時期は、前年度の定例総会において決定する。
- 3 定例総会の運営は、各期毎の当番でこれにあたる。
- 4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに、役員会の決定をもって会長がこれを招集する。

第14条 総会は、次のことを審議する。

- (1) 会務の報告
- (2) 決算の承認
- (3) 規約の改正
- (4) 役員の選出
- (5) その他必要な事項

●第7章 役員会及び幹事長会

第15条 本会の役員会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長をもって構成し、会長がこれを招集する。

- 2 本会の幹事長会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長及び幹事長をもって構成し、会長がこれを招集する。

第16条 役員会の議決は、出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは、議長がこれを決する。

第17条 会員は、役員会に出席して意見を述べることができ。

- (1) 総務部
- ア 総会及び役員会に関すること。
- イ 規約の改廃に関すること。
- ウ 本会の渉外事務に関すること。
- エ 支部の結成及び支部との連絡調整に関すること。

オ その他庶務一般に関すること。

- (2) 会計部

ア 本会の会計に関すること。

- (3) 文化部

ア 会誌及び会員名簿の発行に関すること。

イ 会員の親睦を図り、文化厚生活動に関すること。

- 2 部会には、部長1名、副部長若干名、委員若干名を置く。
- 3 前項の部長、副部長及び委員は、会長がこれを委嘱する。

●第8章 会 計

第19条 本会の経費は、入会金二、〇〇〇円、終身会費三、〇〇〇円及び寄付金をもってあてる。

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

●第9章 事務局

第21条 事務局は、若干名の事務員を置き、本会の事務を処理する。

- 2 事務局員は、会長がこれを委嘱する。

●第10章 規約の改正

第22条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第19条	S 50.	9.	6改正
第19条	S 53.	9.	2改正
第19条	S 57.	8.	4改正
第13条2項	S 58.	8.	13改正
第19条	S 63.	8.	7改正
第19条	H 2.	8.	11改正
第4条・第8条・第10条・第11条	H 4.	8.	8改正
第15条・第17条・第18条・第20条	H 7.	8.	12改正
第5条4項	H 9.	8.	9改正

札幌支部



雑感

同窓会会長

武田

寛（北高十六期）

私が生まれた年は一九四七年で、第一次ベビーブーム（一九四九年には出生数は約二七〇万人、出生率約四・六人）と呼ばれた。その後第二次ベビーブーム（一九七三年出生数二百九万人、出生率約二・一人）があり、その後徐々に出生数が減り続け二〇一三年は一〇九万人（出生率一・四三人）で第一次ベビーブームの出生数の約四割である。

私が大学を受験した昭和四十一年の進学率は、大学と短大合わせて十七％（進学数四〇万人）であったが、平成十五年の進学率は、

大学（四十一％）、短大（八％）、専門学校（二十三％）、高専（二％）あわせて七十三％（進学数約一〇八万人）であり、欲を言わなければ受験生全員が入学できる状況である。受験生にしてみればありたい話であるが、学生の質の低下が顕著である。

偏差値、ゆとり教育が学生の質を変えた。将来を見据えてこんな事をしたから、この学部・学科を受験するといった選択ではなく、

偏差値でこの大学に入れそうだから受験するという選択が多くなっているのは事実である。この種の

学生は、入学してからが大変である。一講義九〇分で、朝九時から午後四時一〇分までの長丁場である。興味が無ければ眠たくなる。私語が多くなる。ノートを取らない。おまけにテキストを持ってこない。このような学生が年々増えてきている。いざ、就職する時期

になっても、希望する会社が続かず、専門外の会社就職する学生が増えている。

少子化の影響か、スマホの影響か、コミュニケーション能力が落ちてきている。電車に乗ったら、多くの乗客がスマホをやっているのが目に留まる。日本の将来を危惧するのは取越し苦労であろうか……

東京支部



北高東京同窓会のこと

東京同窓会会長

山口 哲男（北高十八期）

東京同窓会の会長を務めさせて頂いている18期の山口哲夫と申します。伝統ある東京同窓会を維持・発展させるべく鋭意努力するつもりです。ご指導・ご支援を宜しくお願い致します。昨年に引き続き執筆依頼を受けましたので、昨年の原稿をベースに、変更のある部分のみ書き換える形を取らせて頂きたいと思えます。

新しい役員は、18期のメンバーが大多数を占めることになりました。18期といえば、戦後のベビーブームの最盛期に生まれ、厳しい生存競争を生き延びてきた世代です。人数が非常に多かったせいか、進んだ分野も幅広く、それぞれの分野で逞しく生きてきた人が多く、付き合いと面白いメンバーが揃っているのではないかと思います。18期の東京同期会は、活発に活動しており、毎年3〜4回くらいは何らかの会合を開いています。昨年は4月に新潟県高田公園への夜桜見学会、5月に昨年亡くなった方を偲びつつ酒を酌み交わす会、9月に箱根1泊旅行、10月に懇親会を開催しました。この活力を同窓会でも発揮しようと思っています。

東京同窓会も、活発に活動していますが、残念ながら参加者数が徐々に減ってきています。若い方々の参加が期待は

ど伸びていないのが現状です。皆様のご支援を頂き、この傾向を何とか食い止めたいと考えています。

東京同窓会は財政的にも逼迫しており、本部同窓会からの支援金を増額していたたく事になりました。本部のご支援に感謝申し上げます。但し予断を許さない状況に変わりはなく、今後も皆様からのご支援をお願いさせて頂くつもりです。ご理解をお願い致します。

この間東京同窓会の先輩・同僚・後輩の方々にお会いする機会が何度もありましたが、経験豊富で人間的魅力に溢れた方々に多数お会いすることができ、同窓会活動は大変意義深いことだと改めて思いました。東京同窓会は人材の宝庫だと感じています。

東京同窓会は、今年9月26日（土曜日）2〜4時に音楽ビブラザ・ライオン銀座店で開催します。昨年には10月開催と伝えましたが、東京旭川会の総会・懇親会と1日違いの連日開催になるため、日程を変更させて頂きましたので、ご注意ください。

皆さん東京付近の方は是非参加して下さい。また東京付近に知り合いの同窓生がいましたら是非お声を掛けて下さい。もちろん東京付近の方でなくても参加は大歓迎です。宜しくお願い致します。

恩師の近況

恩師の近況

Former teacher



同窓生から同窓生へ

阿部 敏

旭川北高校には、昭和61年4月から平成9年3月まで、11年間お世話になりました。

市内春光町に生まれ、北鎮小学校、北星中学校、旭川北高校を卒業し、教育実習を北高でさせていただいて教職に就き、今度は教員として北高に奉職させていただきました。北高は自分の青春時代を過ごした母校であり、教員として育ててくれた高校でもあります。思い起こせば、31歳から42歳まで、いろいろな面で勉強をしなければならぬ若い教員時代を母校で過ごせたことは、私にとっては何もにも代え難い経験でした。

ちなみに今回の同窓会担当期は、私が初めて北高で担任を持ち、卒業生を送り出した学年でもあり、特に思い出深いものがあります。

私は本年3月札幌国際情報高等学校を最後に定年退職をし、現在、

ご縁があつて柿本比佐緒先生の後任で旭川大学高等学校に奉職しています。約20年ぶりの旭川勤務になりました。しかも、毎日8時から16時までの平常勤務で、今度は私立高校の学校経営に携わることになりました。若い人たちの陰に隠れて静かに退職後の生活を送るつもりでおりましたが、思いがけない第二の人生です。

当番幹事の北高第39期の皆さんには、大変お世話になりました。私の在職時代よりも年齢が上になりましたね。これから社会の中核を担っていく皆さんの今後のご活躍と母校の旭川北高校のいやさかを心より祈念いたします。

Former teacher



あのころ

倉茂雅人

四十代も半ばになれば職場では「中堅」の言葉以上に頼りにされて、新人教育を任されることも多いのではないのでしょうか。そんな

あなたの職場に、大学を卒業したての新人が入ってきたとします。しかし、彼は「新人」のくせに覇気がなく、時にやる気を見せたかと思えば空回り。そのくせ上司（あなたです）のアドバイスを聞いているのかいないのかわからないような態度でコミュニケーションも何かズレ気味。「ゆとり」の言葉がびつたりの子。それが三十年前の僕です。ただし、僕の時代は「新人類」という言葉でした。

FBで何人かの北高卒業生のみなさんと交流させていただいています。自分の過ごした四十代よりも、はるかにすばらしい時を生きているみなさんの生活を垣間見て、「後生畏るべし」の感慨を抱くと同時に、「あんな先生ですみませんでした。」と申し訳なく思うことがあります。もっと良い先生が教えてくださっていたなら、さら

に素晴らしい日々が広がっていたかも知れないのに、と。

しかし、僕にとって旭川北高等学校での四年間は本当に「有り難い」掛け替えのない時間でした。職員室にいらつしやる多士済々たる諸先輩の教育へ向かう姿勢は、その時には真似るべくもありませんでしたが、現在までの目標となつていきます。そして何よりも生徒のみなさんと過ごした時間は、その後の自分の「立ち位置」を決めてくれた大切な財産になりました。あの頃「いつでも辞めてやる」と半ば本気で口走っていた僕が、今まで教員の仕事を好きでやってこられ、また僅かながら成長できたのは北高でのみなさんとの時間があつたからです。ありがとうございます。

僕も定年まであと六年になります。このたび初めて「同窓会」というものにご招待いただきました。当日はあの頃の自分に蹴りを入れられにうかがいたいと思つています。

Former teacher



旭川北高校に 感謝の思いを込めて

渡邊 政美

此の度は同窓会のご案内をいただきありがとうございます。特に今年度は第50回の記念すべき同窓会であり幹事になられた皆様の御苦労も一入のものがあつたのではないかとご推察申し上げます。

振り返ってみますと、今回幹事になられた皆様と出会った時、私は33歳くらいでなかったかと思いますが、あれから早くも30年の月日が経ち改めて時の流れの速さを感じております。人には「あれが自分にとつてのエポックだった」と思うようなことがあります。私にとって旭川北高校で教鞭をとった10年近い年月がまさに「エポック」だったと思っています。それは旭川北高での教師生活がその後の私の教師としての歩みの大きな柱であり支えになったからです。私は、新任で利尻高校に赴任しましたが教材に向かう姿勢も甘く、知識を押し付けるような授業しかできない自分が果たしてこのまま

教師としてやっていけるのだろうかという不安も抱えておりました。

そんな自分が昭和58年1月1日（こんな日付の辞令があることに驚きました）に旭川北高校に異動となりました。そのとき、私の頭をよぎったのは利尻から出られる、進学校で教鞭がとれるという喜びよりも、果たして大規模で優秀な生徒が集まっている学校で生徒を伸ばすような指導ができるのかという思いや不安の方がはるかに大きかったことを今でも覚えております。あれこれ迷っている自分に本当に不思議なことにビデオ・アン・リーが主演をした「風と共に去りぬ」という映画が浮かんできました。その映画の中で苦しいときや悩んだときに、「明日には明日の風が吹く、そのことは明日考えよう」（※After all tomorrow is another day）とつぶやいていた台詞が鮮明によりみがえっ

てきました。

その時から、不安は不安として受け止め、そのことばかりを考えずに、とにかくやるべきことをやるだけやってそれから考えようというように気持ちを持つことができました。

その後、教材研究や担任業務さらに分掌指導などを通して少しずつ教師らしくなり教育に対する熱意も強いものになっていきました。このことは自分が努力したということだけではなく、皆さんによって、教師として成長させてもらい、いわゆる「教師力」を鍛え伸ばしてくれたお蔭だと思っています。

素晴らしい生徒に恵まれましたので、担任を持つことが楽しく、9年3カ月の勤務期間で4度も卒業生を出すことができ、生涯にわたる大きな財産を得ることができました（二度目の担任が此の度の幹事期の皆さんでした）。

人生においてこのような充実した時間を持てたことは幸せなことであり、まさに旭川北高の生徒のお蔭であると思っています。その経験が、その後、教師として、教頭として、さらには校長として仕

事をする上で大きな力となり平成25年3月31日に無事に退職を迎え教員生活を終えることができました。

現在は北海道武蔵女子短期大学で教鞭をとっております。短大の採用において、私は「大学の勤務は初めてなのですがどのように講義を進めたらよいでしょうか」と教務委員長におききましたところ、「先生が旭川北高校でやっていったようにやっていただければ十分です」と言われました。この言葉によって改めて旭川北高校に対する思いを強くいたしました。

最後になりましたが、旭川北高校の一層の発展と卒業生や在校生の活躍を心より祈念いたします。また、幹事期の皆様、本当にありがとうございました。

Former teacher



懐かしき日々

佐々木 洋子

五十回同窓会開催お目出度うございます。また招待状ありがとうございます。

北高を退職して丁度十年になります。寄稿を依頼され机に向かうと当時の事が湧き水のごとく甦ってきます。

赴任した当初、選択授業の移動なのか廊下は生徒で一杯、今何階にいるのか迷子になりそうな事が度々でした。

沢山の学校・学年行事は何時まで経っても忘れる事が出来ません。生徒たちはいつも真剣これぞ青春というほど、情熱を傾けました。

合唱ではパート責任者が苛立つ程だめ出しする指揮者、自分の誕生日（前夜祭の日）を忘れるまでとことん取り組んだ演劇、友情を実感するまで調査を繰り返した展示など、私自身、生徒たちを通して学ぶことが多かったです。

合唱コンクールが終わって審査委員長だった旧職員の先生が「優勝した担任に是非会いたい」と職員室に来られ、合唱らしい合唱を

聴かせてくれたとのことのお褒めの言葉はあれから三十年近く経っても忘れられません。

文武両道の北高生の思い出は尽きません。五日制の試行導入そして週五日制の実施となり個性の発揮すべき場がどんどん削られていくのは残念でした。

そんな中でも、私の人生にとつて忘れられないのは、やっぱり甲子園出場です。

私の退職前最後の春休み、体育館で部活を指導している時、通りかかった野球部の生徒に「今年最後の年なの。甲子園に連れて行って」と声をかけました。それが現実となり、甲子園で歌った校歌は最高でした。できれば勝って校歌を声高々歌いたかった。

退職後、いろいろと計画もありましたが大きな手術を二度しなげらも世界旅行を楽しんでいます。術後の回復と相談しながら急ぎ足の旅行、時間があればもう一度復習したいと無い物ねだりの希望を持っています。

Former teacher



ザ・北高生

清水 民雄

北高には、教師生活三十七年の半分以上の二十年間勤務しました。時間講師も含めると十校ばかりの学校を経験しますが北高の校風は、格別なものがあります。

「羨が良い」「礼儀正しい」「いじめが無く仲が良い」等、言われ本当に快適に勤めさせていただきました。

しかしながら、反面「反骨心に欠ける」「闘争心が乏しい」「ひ弱に見える」とも言われ、社会の荒波を渡っていきけるのだろうかという危惧もありました。

昨年、卒業生のS君が夫婦で我が家を訪ねて来ました。久しぶりの出会いでしたが結婚したという以外格別に変わったところが無く、のんびりした表情と淡々と話す姿は高校時代のままでした。

S君は高校時代は理系の生徒で、部活は化学実験部で、部員から押し付けられて部長をしていました。道内の大学を卒業すると首都圏の中規模の土木企業に勤め、中堅所として海外出張もこなしている

のことです。

趣味を尋ねると、家の側に音楽教室があつたので最近バイオリンを習い始めたとのこと。私は、「バイオリンといえばタイスの瞑想曲だよな。ぜひ聴きたい」と、からかい半言言っていました。

今春、S君が再び訪ねてきました。持参したDVDと一緒に観ると、さいたまの音楽発表会で、S君は独奏でタイスの瞑想曲を弾き始めました。

まだたどたどしくはありましたが、しっかりとあの難しい曲を最後まで弾き終えました。私は言葉を失い、目頭が熱くなりました。S君は私のたわむれの期待に応えようと、教室の先生に頼み込み、忙しい仕事の傍ら一生懸命練習したことは想像に難くありません。私の感動している姿を見てS君は嬉しそうに微笑んでいます。『これぞ、北高生』と感じ、誠実な北高出身者がしっかり世の中に根づいていると確信しました。



宿泊研修



宿泊研修



北高祭



北高祭



体育大会



体育大会



遠 足



遠 足



勉強合宿



旭川北高等学校 2学年見学旅行 奈良公園 2010年10月13日



見学旅行



見学旅行



旧体育館



新体育館



普通教室



職員室



廊下



保健室

心に響く音を目指して

大阪交響楽団
首席トランペット奏者徳田 知希
第39期
とくだともき

私は現在大阪府堺市に本拠を持つオーケストラ、大阪交響楽団でトランペット首席奏者として活動しています。

多くのオーケストラ奏者は幼少期よりプロを目指して専門の先生に師事し、音楽大学に進学、更にはヨーロッパなど海外へ留学……という経歴の方々がほとんどです。

かく言う私は、小学校のときに入った器楽クラブで始めたトランペットを北高吹奏楽部でも続け、専門の先生に習うこともなく仲間たちとわいわい言いながら楽しむ「ラッパ小僧」でした。

そんな自分がオーケストラ奏者を志したきっかけは旭川教育大音楽科に入学してからのことです。

トランペットを専攻し、より専門性を高めるため、札幌交響楽団トランペット奏者の松田次史先生に弟子入りました。仲間たちとの切磋琢磨だけでは得られない本物のトランペットの「音」に衝撃を受け、私の音楽観は開眼されました。それからは、「師匠のようなラッパ吹きになりたい、いつかオーケストラで演奏したい!」という想いが強くな

りました。

とはいえ、国内のオーケストラのトランペット奏者の席はおよそ100席。ひとつの楽団に二席から多くても五席ほどしかありませんし、定年退職など退団者が出ないとオーディション自体が開催されません。そしてそのひとつの席を巡って50名以上、多いときには100名くらいの志望者が集まる、喻えるなら「砂漠でダイヤを拾う」、そんな世界です。私もいくつかの楽団のオーディションを受け、その度に苦汁を舐めてきました。しかし、





家族、先生、仲間たちのあたたかい励ましのおかげでオーケストラ奏者への熱い想いは消えることなく続けることができ、2003年に「大阪交響楽団トランペット首席奏者」という「ダイヤ」を手にすることができました。

北海道の旭川から全く未知の大阪に行くということで、文化、言語、慣習などの違いに自分はないことができるだろうか、という

入団前の思いはありがたいことに全くの杞憂でありました。

「関西人」ととって「北海道人」は大変珍しいようで、入団して十年を過ぎた今でも北海道弁を通す私に、ノリのいいメンバーたちは「なまらうだべや！、したっけ！」など今ではほぼ死語になったような北海道弁でいじってくれます。もしやもすると私は北海道弁の間違ったイメージを彼らに植えつけ

ているかもしれません。

オーケストラの業務というものは、定期演奏会など楽団自主公演のほか、次世代を担う子どもたちへ向けた音楽鑑賞会、「第九」などの合唱団との公演やオペラ、バレエ等々。また、クラシック音楽に限らず、さだまさしさんやクリス・ハートさん、NHK歌謡チャリティコンサートなどジャンルを超えたコラボレーションも私たちの大切なコンサートのひとつです。そして、2011年3月の東日本大震災以降、復興支援として宮城県や岩手県に何度となく赴きます。

楽団員の多くは1995年の阪神大震災を経験しています。その想いは私には計り知ることのできないほど強く、その心から溢れ出る音、声は当事者にしか出し得ぬ深いものがあります。

まだまだ復興への道のりは容易なものではありませんが、私たち大阪交響楽団もその一翼を担っていき続けます。

今後もオーケストラを通して、

多くの皆様に生のクラシック音楽を届け、普及発展に寄与していきたい、また、志を同じくする後進へのお手伝いも大事な役割と考えています。

そのためにもこれからまだまだ演奏技術の向上、感性の研磨に努め、一人でも多くの方々の心に響く音を追求していきたい、そう思っています。

今日も今から練習がんばります!!

■徳田知希さんのプロフィール

1970年	北海道旭川市に生まれる
1989年	北海道旭川北高等学校卒業 北海道教育大学旭川校にてトランペットを専攻
1995年	日演連推薦新人演奏会において札幌交響楽団とソリストとして共演
2006年・2009年	大阪交響楽団とソリストとして共演
2009年	「アフィニス夏の音楽祭2009広島」に参加
2003年より	大阪交響楽団首席トランペット奏者を務める

トランペットを札幌交響楽団・松田次史 元新日本フィルハーモニー交響楽団・大倉滋夫の各氏に師事
関西トランペット協会常任理事

全ての女性の笑顔と健康のために

医療法人社団シリウス アトラスレディースクリニック
理事長

塚田 訓子 第39期 つかだ くにこ



特別講演
「OC（低用量経口避妊薬）LEP（月経困難症治療薬）は女性の「ミカド」
～適正処方と女性の毎日を健やかに～」
演者：アトラスレディースクリニック 塚田 訓子 先生



東京都杉並区高円寺の駅前で、

婦人科クリニックを開業して5年になります。婦人科はなんとなく怖い、恥ずかしいと言った負のイメージを払拭し、気軽に相談できる身近なかかりつけ医を目指して診療にあたる日々です。中には親子3代で通院して下さる患者さんもいて、地域に根ざして診療を行う喜びを実感しています。

幼いころから医師に、それも外科医になりたいと思っていました。しかし、私が国家試験に合格した当時は、まだまだ女性であることを理由に外科系の入局を断られる

時代でした。理不尽で悔しい思い

もしましたが、1年間のローテーション研修で女性の生涯のパートナードクターになれる産婦人科の素晴らしさに気づき、婦人科腫瘍の手術件数が多い札幌医大産婦人科学講座に入局しました。

医師の仕事は体力勝負です。勤務医時代は一晚の当直で7件のお産をとったこともあります。帝王切開はもちろん子宮外妊娠や卵巣腫瘍破裂など深夜の緊急手術も多く、自宅のベッドで眠れる日は月に5日もあればいい方でした。つらいこともたくさん

ありましたが、元気に赤ちゃんが産まれてきたときの喜び、病気が治って退院する患者さんの笑顔を見るたびにこの仕事を選んで良かったと思ったものです。

産婦人科の領域は、分娩、腫瘍、不妊症と大きく3つのカテゴリに分類されます。どの分野も一通り勉強した上で最終的な専門分野を決めるのですが、元外科医志望の私は迷わず婦人科腫瘍を選択、その中でも卵巣癌の治療・研究を一生の仕事とすることに決めました。子宮は鶏卵大、卵巣は親指の先くらいの小



さい臓器です。そのせいで婦人科の病気は自覚症状に乏しく、定期検診を受けなければ早期発見が難しいのです。中でも卵巣癌は最も発見が困難で手の施しようのない状態になってから受診される方が多く、自分の無力さを思い知らされる日々でした。

大学病院で何度も癌の患者さんとの別れを経験するうちに、病気になった患者さんを待っているだけではダメだと思うようになりました。ちょうどそのころ医局から千歳市にある女子少年院の医務課長を任せられ、大学病院での診療の傍ら、少女たちの健康管理を行うようになりました。女子

少年院と聞くと特殊な場所のように感じる方もいるでしょうが、ひとりひとはあどけない普通の子でもあります。自分を守る術を知らないせいで、普通の子どもが大人たちに騙され売春や違法薬物に手を染めている、その現実には愕然としました。入院時に何らかの性感染症に罹っている子どもが9割を超えており、とにかく自分を大切にしてほしいの思いから月に1回の性教育講演を始めました。どうやったら子どもたちにわかりやすく伝えること

ができるのか、夢中になって性教育の勉強を続けていくうち、いつしか私の興味は手術よりも病気の予防に向かっていきました。私が医師となった1999年に日本で低用量ピル（OC）が解禁となりましたが、OCは避妊だけでなく月経不順、月経痛、子宮内膜症等の治療薬であり、1年以上の内服継続で子宮体癌・卵巣癌のリスクを下げることもできる素晴らしい薬です。OCで避妊、コンドームで性感染症予防を訴えることは、卵巣癌・子宮体癌の予防、クラミジア・淋菌などの性感染症による不妊症の予防につながります。また、子宮頸癌は性交時にHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染することが原因なので、性交経験前にHPVワクチンを接種し、性交が始まったら年齢が若くても子宮頸癌検診を1年に1回行うことで早期発見、予防が可能です。こうした話をわかりやすく伝え、病気になる前に身体のことを相談できる場所を作ろうと開業を決意

しました。現在の私はクリニックでの診療のほか、休診日に中・高校生への性教育、一般の方への健康教育、医師・コメディカル向けにOCのお話など、年間30本ほどの講演会を行っています。学生時代に思い描いていた医師像とは全く異なる人生を歩むことになりましたが、この仕事が大好きで誇りを持って生きています。これからも高円寺の小さなクリニックで地道に診療を続けながら、女性の笑顔と健康を守るために活動していく所存です。

■塚田訓子さんのプロフィール

1971年	北海道稚内市生まれ
1989年	旭川北高等学校卒業
1999年	旭川医科大学医学部卒業 札幌社会保険総合病院等でローテーション研修
2000年	札幌医科大学医学部産婦人科学講座入局 札幌医科大学附属病院産婦人科のほか関連病院にて勤務
2002年	紫明女子学院（女子少年院）医務課長
2004年	上京し、都内産婦人科医院で勤務
2008年	レディースクリニックぬまのはた医長
2010年	アトラスレディースクリニック院長
2012年	医療法人社団シリウス理事長
2013年	杉並区医師会保険部担当理事
2014年	東京産婦人科医会学校保健部 学校保健委員長

ロボット技術で世界を変えたい

(株)本田技術研究所
第5研究室第1ブロック研究員

島田 圭

第39期

しまだ けい

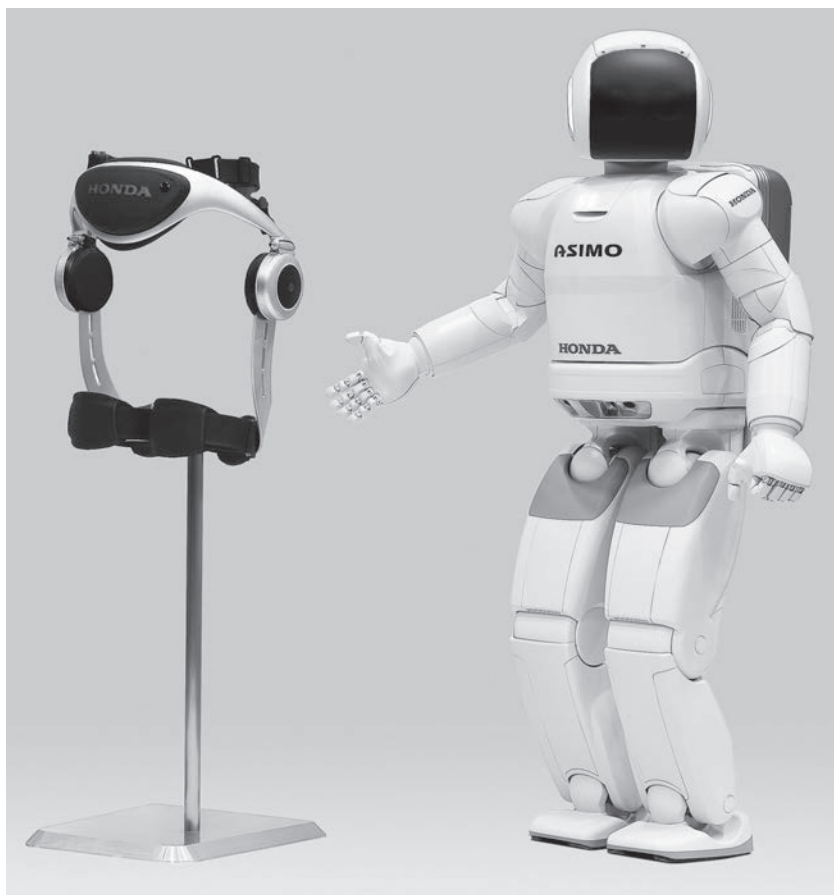


私は、国内自動車メーカーで、「歩行アシスト装置」と「ヒューマノイド」の研究開発をしています。大学を卒業して初めに、水道管特殊継手のメーカーに就職しましたが、より自分の専門性を生かせる仕事に携わりたいと思うようになりました。そこで技術系アウトソーシングの会社に転職し、派遣先の光学機器メーカーでデジタルカメラの設計を経験して、その後今の会社に入社しました。

「歩行アシスト装置」とは、腰に取り付けた2個のモーターの回転によって歩行を補助する「パワードスーツ」のことで、私はメカ設計を担当しています。ゼロからの研究開発であったため、初めは試行錯誤の連続でした。また人が直接装着するモノなので、安全面には特に留意しました。この仕事を通して特に発想力が養われたと思います。振り返るとアイデアスケッチはノート5冊分になり、特許出願数は60件を超えました。高齢者の方が装置を着けて軽々と坂道を昇っていく姿を見ると、諦めずに研究を続けて良かったなと思います。まだモニター使用の段階ですが、い

れはコストを下げて一般に普及できる製品にしていきたいです。一方、「ヒューマノイド」とは、人型ロボットのことで、近年さまざまな機関で研究がなされています。我が社でも1986年から研究がされていて、「ASIMO」は皆さんもご存知かと思います。私はASIMOの構造解析などの業務を経て、今は次世代ヒューマノイドのメカ設計を担当しています。「人間（生物）のメカニズムが驚くほどよくできている」ということです。筋骨格、神経網、感覚器官、どれをとっても最適





に構成されています。これらを機械に置き換えること自体、おこがましいことではないかと時々思います。しかし、やがてヒューマノイドが我々の日常の中に入ってくる時代が必ず来ると確信しています。

高校時代はあまり学業に励んでいませんでした。今思うとおちこぼれていましたね。恥ずかしながら冬休みに補講を受けていた記憶があります。

そんな私にも、何かに取り憑かれたように頑張ったことが一つだけありました。2年生の時に、北高祭の演劇で「リア王」の監督を

やって3位に入賞したことを覚えて

います。その時は、監督、脚本だけでは飽き足らず、大道具の担当に混ざって背景画も描いていました。高校時代に一番夢中になったことであり、今でも忘れられない良い思い出です。それが高じてか、今でも観劇が趣味の一つです。

今後は、ロボット技術で世界を変えて行きたいと思っています。北高在校生、そして卒業生の皆様も是非これからのロボティクスの進化にご期待下さい!!

この度は、このような企画に寄稿させていただき、誠にありがとうございました。

■島田 圭さんのプロフィール

1989年 旭川北高等学校卒業
1995年 千葉工業大学
精密機械工学科卒業
1998年 コスモ工機(株) 退社
2002年 (株)フォース 退社
2002年 (株)本田技術研究所入社
2008年 社長賞受賞
「歩行アシストの研究」

絵本の力を伝えたい

代表 Sana cafe style

秋田 明子

第39期

あきた あきこ

大切なのは大人の心

子どもの小学校で読み聞かせを始め、子ども達のキラキラした目の輝きが高学年になると失われていくのに気が付きました。そして、その目の輝きを奪っているのは他でもない私達大人だと感じました。疲れた忙しいを理由に子どもとしっかり向き合っていないこと、意外に多いと思います。いつしかそれが当たり前になっていくことも多いのではないのでしょうか。子どもと向き合い、そして受け止める。そこで子どもが感じる信頼感や安心感は、心の成長に欠かせないものだと感じました。と同時に「子どもとしっかりと向き合うには、大

人が元気でいること。」これは私にとってとても大きな気づきでした。

絵本を心で感じる

じゃあ、どうすれば大人が心の在り方を意識して生活することができのでしょうか。しばらく答えが見つかりませんでした。そんな時、ここ数年イライラしていない自分に気付いたのです。沢山のことが重なりその忙しさが数年間続いた時も、嫌な事があった時も、イライラする感情は不思議とありませんでした。むしろ前向きに考える事ができていたのです。すぐに絵本の力だと思いました。子どもが七カ月のときに

始めた寝る前の読み聞かせ。ほぼ毎日365日、子どもが小学校五年生まで続いたかな。沢山の絵本に出会い、作者の想いを感じ、さまざまな世界観に浸り、そして、それらを表現する絵に子どもと一緒に感動してきました。長年絵本を通して心で感じてきたことが、どんなことでも受け入れられる、そんな柔軟な思考を作ってくれたと思います。この絵本に出会ってなかったらそんな中、フランスの作家ティエリー・デデュの絵本「ヤクバー勇気II信頼」に出会いました。ちょうど卒業する六年生への絵本を探していた時でし





た。こんなにも絵や文に力のある作品に出会ったのは初めてでした。訳者はノンフィクション作家の柳田邦男氏。あとがきには彼の絵本に対する想い、日本の子ども達を取り巻く環境や悪循環への危惧、生きて行くには何が大切か、そんな想いが詰まっていた。彼のことをもっと知りたいと手に取ったのが『生きる力、絵本の力』でした。その本には私の想っていた

こと全てが書かれていました。「こんな時代だからこそ大人に絵本の素晴らしさを知ってほしい。感じて欲しい。」これらの本との出会いが、「大人のための読み聞かせ」を始める大きなきっかけとなったのです。

その後忙しいママや大人が少しでも脳を休ませることができたらと、自宅で始めた大人への読み聞かせ。「絵本は子どものもの」と捉えていた方が大半でしたが、大人だから感じる絵本の楽しさや読み聞かせの心地よさに、皆さんの絵本に対する見方が少しずつ変わっていくのを感じました。「絵本にこんなに癒されるなんて思ってもみませんでした。」「絵本コーナーに立ち寄ることが多くなりました。」などの心の変化

を楽しんでいる、そんな嬉しい感想が寄せられます。絵本には不思議な魔法があるんです

大人の心が潤い温かい気持ちが続けば、自然と子どもに愛情を注ぐことができます。その愛情を感じ

て育った子どもは、自分の愛情を

周りの人に注ぐことができます。

何が大切か見極める目を養うこと

も、困難に直面した時踏ん張ること

もできるでしょう。子ども達が

しっかりと自分の足で立ち前に進ん

でいける大人に成長して欲しいと、

心から願います。そのためにも今

私達が未来を担う子ども達のため

にできることは、まず自分の心に

潤いを与えることではないでしょ

うか。絵本には不思議な魔法があ

ります。人生の大切なことをシン

プルな言葉で伝えてくれます。ぜ

ひ絵本を手に取り、心で感じてみ

てください。

絵本で脳を休めましょ

自分のためにも

子どもの未来のためにも

■秋田明子さんのプロフィール

- 1989年 旭川北高等学校卒業
- 1991年 北海道武蔵女子短期大学卒業
- 1996年 全日空㈱千歳空港支店退社
- 2009年 小学校の図書ボランティア「ブックポピンズ」に参加
- 2010年 読み聞かせグループを立ち上げ活動開始
- 2014年 「Sana cafe style」として自宅にて大人のための読み聞かせを開始
月一回ブックポピンズメンバー向けの「大人のための読み聞かせ」を開始
誕生学アドバイザー青木千景さんの講演会にて絵本を朗読
- 2015年 魔法の質問キッズインストラクター、魔法の質問カードマスター資格取得

ブログ <http://ameblo.jp/akko-sweet-heart/>
[sana cafe 絵本] にて検索

いっしょにね。みんなのラジオ

(株)らむれす 三角山放送局
社長

杉澤 洋輝
すぎさわ ひろき

第39期



1989年3月に旭川北高を卒業し、その年の5月末にラジオの世界に入ってから、早いもので26年になります。STVラジオやAIR-Gで制作ディレクターとしてお世話になり、1998年、現在の弊社社長とともに、いっしょに、ね。をスローガンとしたコミュニティFM、三角山放送局を札幌市西区に開局しました。開局にあたり3つのルールを作りました。①伝えたいことがある人がマイクの前に座ること。②子ども、女性、お年寄り、障害のある人、LGBTなど社会的少数派の意見を切り捨てず積極的に発信すること。③放送で嘘をつかないこと。いずれも県域局へのアンチテーゼでした。

以来、毎月170名を超える市民パーソナリティが、自分の思いを伝えていきます。車椅子のかた、視覚障害者のかたがレギュラー番組を持ち、地域共同作業所で働く知的・身体的障害を持つ人たちがその活動を地域にアピールする番組もあります。札幌刑務所の受刑者のリクエスト番組や、中国語・英語・韓国語のみでお届けする外国人向け番組もあります。

放送局では、障害を持つ人がしゃべり手という発想がありません。ラジオのしゃべり手が最も気持ち良い瞬間は、ディレクターのキューに合わせて、カフスイツチを上げ、その第一声を出す時です。手が動かせない人にはそ

れができないし、視覚障害者の人にはキューが見えない。そこで2006年、北海道立工業試験場の協力を得て、呼気でカフスイツチのON/OFFができる「エンジェルブレス」を、視覚障害者に振動で合図を送る「ブルブルキュー」を開発しました。

市民パーソナリティが思いを伝えるバラエティ豊かな番組のほか、北海道日本ハムファイターズ金子誠さんの番組は、スタートから10年が経ちました。札幌市西区に本社・練習場を持つコンサドーレ札幌の応援番組や選手出演番組、アウェイ戦生中継も15年以上続いています。

そしてスタジオがあるJR琴似駅前のスペースでは、コンサ



▼ まちもりカフェ公開生放送の様子



▼ 季刊の地域密着情報誌マガジン762



◀ エンジェルプレスとブルブルキュー

ートや地域のみなさんの手作り市場など、地域の縁側として機能しています。

多くの放送局は、番組を作り、放送することが「目的」になっているように見えます。しかし、わたしたちにとって放送することはゴールではなく、むしろスタートといえます。それは関係性を築くひとつの「手段」にすぎません。なぜなら、これからはずーっと、お付き合いは続くからです。さらに連携を高め、人と人、人と組織や団体、それらをジョイントするチェーンの役割。三角山放送局は言い換えれば、地域コミュニケーション連携業なのです。地域をかき混ぜ、新しい価値やつながりを作る。わたしは「地域リミックス」と名付けています。

SNSやネットが広がり、ラジオは斜陽だと言われます。しかし、コミュニケーションの原点は対話であり、人の声です。同じような考えに共感し、異なる考えを許容し、聞く耳を持つ。「共感確認メディア」であり「異論

■ 杉澤洋輝さんのプロフィール

- 1989年 旭川北高等学校卒業、札幌テレビ放送(株)ラジオ局に制作アルバイトとして勤務。
- 1994年 イベント、ラジオの制作プロダクション、らむれすにてAIR-G、STVラジオの番組制作および、さまざまなイベント制作を手掛ける。
- 1998年 (株)らむれす、三角山放送局を開設。
- 2008年 (株)らむれす 代表取締役社長。

三角山放送局は、FM76.2MHzで、札幌市西区、手稲区、中央区、北区などで聴取できる。また、インターネット放送でパソコンやスマホでも聴くことができる。
<http://www.sankakuyama.co.jp>
 スマホなら無料アプリ「Listen Radio」をダウンロードしてお聞きください。
 ≪受賞歴≫

- 2001年 第38回ギャラクシー賞ラジオ部門選奨
- 2004年 北海道福祉のまちづくりコンクール ソフト部門最優秀賞
- 2006年 第1回北海道コミュニティ放送大賞の2部門で大賞
- 2008年 北海道福祉のまちづくりコンクール 福祉用具部門最優秀賞
- 2011年 「パリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」において「内閣府特命担当大臣表彰 優良賞」
- 2012年 経済産業省ダイバーシティ促進企業100「促進企業表彰」
- 2013年 札幌弁護士会「人権賞」

受容メディア」それがラジオです。声だからこそ、相手を思う、思いやる。情緒的に聞こえるかもしれないませんが、ラジオの本懐はやはりそこにあります。

今年は我が国のラジオ90年。FMのエアチェックに費やしていた北高時代。和寒から道北バスに毎日揺られ通学した三年間でもありました。早々と旅立っていった数人の同級生たちを思い出しながら、あの頃の思い出話を番組に遺しておきたいと思う今日此の頃です。

同窓会の絆って強ければいいの？

株式会社中央薬局
代表取締役社長

堀籠 淳之 第39期 ほりごめ あつし



今回のテーマの中の言葉「絆」。

強い絆の仲間がもつ安心感や一体感、行動のスピード感などとても良いものですね。一方で、社会全体における「絆」が薄れているとも言われています。さらに、同窓会では人も多く、学生時代を思い出せない人も少なくありません。しかし、後者のような関係性もある目的ではとても有利に働くことを知れば、自分の今後や未来をポジティブにデザインすることができますよ。

私は北高卒業後、東京薬科大学で博士号を取得し、父が経営する

地元旭川の中央薬局に就職しました。研究からも遠ざかり約10年が経った頃、研究室の恩師から「帯広の学会で再会ついでに発表してみない？」と誘われました。研究室の最先端の臨床研究とは異なる調剤薬局の実務的な内容で自信はありませんでしたが、発表後にそのアイデアが複数の雑誌で取り上げられ、取材を受ける機会が多くなりました。今では日経ドラッグ・インフォメーションという雑誌のウェブ版でコラムを連載中です。日常をアウトプットする重要性を

再認識できたのは恩師との「絆」がきっかけでした。父から社長を受け継いだのもちょうどその頃です。

恩師との「絆」は常に強い状態だったわけではなく、帰郷後は距離や目的の観点では弱い繋がりででした。これが同窓会の仲間との関係によく似ていて、繋がりが弱い年月を経て再会しています。1973年の社会学の論文に「弱い紐帯ちゅうたいの強み」という理論(図1)があり、簡単に言うと、有用な情報はすでに多くを共有している強い紐



帯にはあまり無く、むしろ弱い紐帯に多く存在するというものです。ただし、前者は力を使用するときなどには有利です。つまり、繋がってさえいれば、その絆は弱くてもゆるくても素晴らしい情報が得られるのです！学校では校風や環境などから同じ価値観を共有していることもあり、関係性が卒業後

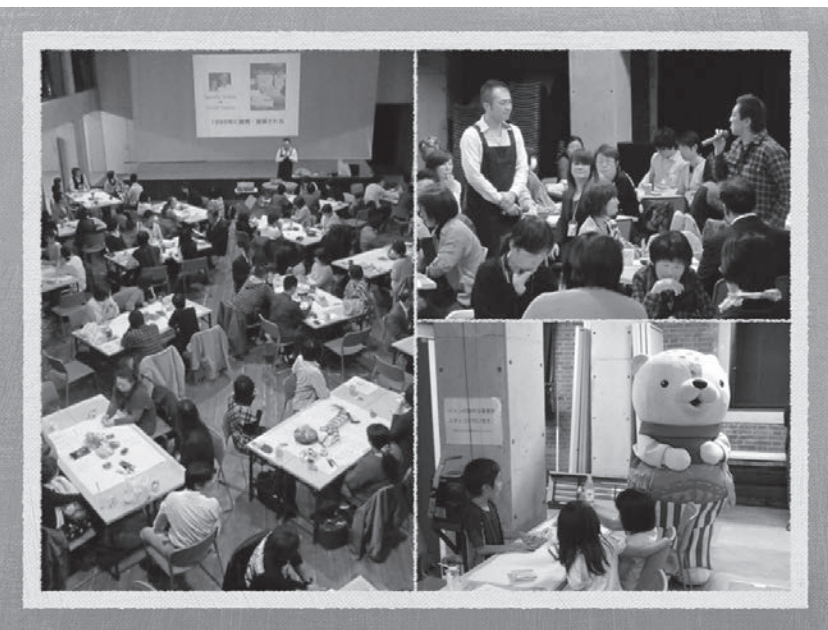
も含めて強い紐帯に発展しやすいのだと思います。つまり同窓会は、テーマにある「時を越え」再会することで、強い紐帯と弱い紐帯の両方の性質を獲得できるのです。さらにそれらの紐帯が新たなネットワークを形成しやすく、実際に、同期の仲間にはプライベートや仕事で素敵なことがいくつも起こっ

ています。

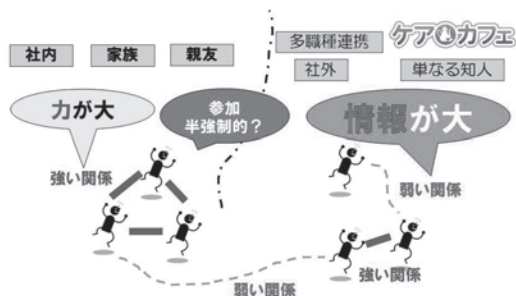
また近年は、地域に顔の見える多職種連携をつくる「医療者・介護者・福祉者のためのケア・カフェ®」（写真）という旭川発祥の集まりの実行委員として、その立ち上げから全国各地の支援も含めて関わっています。細分化や少子高齢化などで断片化した職種同士は案外繋がっておらず、その解決にピッタリのコンセプトが受け入れられて、現在では33都道府県の100以上の地域にまで広がりました。連携は行政も含めた社会全体のテーマですが、ただ集まって偉い人の講演を聴いても人同士は繋がりません。ケア・カフェには人を繋ぐためのいくつかのコツがありますが、そのひとつは参加者同士のテーマに沿った対話や席替えです。職種を問わずゆるく繋がることでひらめきや気付きがあり、その後、日常や現場で動かないと思っていたものが動き出します。過日の同期会でも席替えはリクエストがくるほど好評で、より

多く繋がったはずです。他のコミュニティや、今日の記念すべき同窓会でも試してはいかがですか？ 私とも繋がって下さいね！

<https://www.facebook.com/atsushi.horigome>



「弱い紐帯の強み」



Granovetter, Mark: (1973) "The Strength of Weak Ties": American Journal of Sociology, Vol. 78, No. 6., May 1973, pp 1360-1380.

図 1

■堀籠淳之さんのプロフィール

- 1989年 旭川北高等学校卒業
- 1994年 東京薬科大学薬学部卒業
- 1999年 東京薬科大学薬学部臨床薬理学教室博士課程修了
- 1999年 株式会社中央薬局入社
- 2010年 株式会社中央薬局代表取締役社長に就任
- 2012年 日経DIコラム連載開始
ケアカフェ実行委員として全国開催支援開始
現在会社経営の傍ら、複数連携の会世話人や、執筆、講演活動など

おいしい野菜を届けるために

株式会社丸巳
代表取締役社長

矢澤 睦

第39期

やざわ まこと



現在私は旭川市の隣町、「写真の町」東川町の株式会社丸巳にて農業を行っております。

北高時代は下宿をしながら、陸上部に所属していました。道内の大学を卒業し、横浜の種苗メーカーで2年間研修をした後、北海道に戻り就農しました。

北海道の最高峰「大雪山」の山裾に広がる、高原での野菜栽培と、ミネラル豊富な東川の水を使った稲作栽培、さらに、いくつかのこだわりをもって野菜作りを行っています。

5月のアスパラガスに始まり、ブロッコリー、大根、キャベツ、カリフラワー、人参、南瓜、トウモロコシ、馬鈴薯、ミツバ、そし

て一年を通じて椎茸の栽培販売を行っております。

旬の野菜を届けるために

野菜の生育適温にあわせた栽培を行うために、季節によって、異なる高度の畑で野菜を栽培しています。春先は、標高200m前後のところ栽培し、夏の猛暑の折には、300m〜600mの高原へと場所を移動し、旬が冬のブロッコリーの場合には、冷涼な気候を求めて移動、栽培をしています。その結果、旬の野菜をロングランに提供することができます。

約250haの面積の畑を持って、輪作体系を徹底して行っています。合計40カ所以上にもなる圃場



を持ち、大きな丘陵地が4ヶ所に分断されています。それぞれの土壌、土質、日照時間、風向きが違い、自然条件の影響が明確にあらわれ、美味しい野菜になっています。

徹底した土作り

おいしい野菜を作るにはまず徹底した土作りが必要です。現在は主に水田のモミ殻や生椎茸の廃菌床、豚ふん等を利用した堆肥を作っています。

また、遅効性の堆肥に対して、やや初期生育に力をだす、ほかし堆肥作りを導入し、利用しています。

自家製堆肥で土の力をはぐくみ、今年の作物のためだけではなく、



く、来年のそして10年、15年後の将来を見据えた土づくりをしています。

また、北海道の土壌に不足しがちなマグネシウムや鉄などのミネラル他7種類を、ミネラル肥料を使って補っています。土壌を活性化させる栽培方法により、健康に育った旬の野菜は、農薬を削減して栽培できます。

ミネラルが豊富な土壌で育った野菜は、美味しく、栄養もたっぷりです。

環境にやさしく

東川に降る雪を自然エネルギーとして利用した冷蔵貯蔵施設が2011年冬に動き出しました。

雪室は貯雪庫内に雪を最大4300トン詰め、そこに空気を送り得られた冷風を利用して冷蔵しています。3月に雪を貯雪庫に一杯入れると10月まで冷房冷蔵できます。

雪室貯蔵では、ジャガイモは1月末から春先にかけて出荷されます。

その他、春夏にはアスパラ、ブロッコリー、スイート

コーン、人参、大根の予冷・貯蔵や米、南瓜の貯蔵にも用います。湿度90%の冷気で冷やすことで夏場でも5℃位、春先でも2℃で冷蔵でき、野菜にとってよい状態で保管することができます。

北海道の野菜は特に近年本州での需要がとて多くなってきました。全国各地の生協へも野菜を届けていますが、丸巳では新鮮な野菜を出来るだけ早く、おいしい状態でお客様に届けるため、旭川、札幌など道内の量販店を中心に出荷しております。

店頭では、「東川産直 矢沢さん家の〇〇」というブランドで販売しています。ととても近いところでたくさんの方々の消費者の方と向き合ってお話が出来ること、「おいしい」という声を聞けることが一番の励みになります。



■矢澤 睦さんのプロフィール

- 1989年 旭川北高校卒業
- 1993年 帯広畜産大学畜産学部農産科学化卒業
株式会社 サカタのタネにて二年間研修
- 1995年 実家のある東川町 有限会社 丸巳にて就農
- 2005年 取締役専務 就任
- 2012年 株式会社 丸巳へ商号変更
代表取締役社長 就任

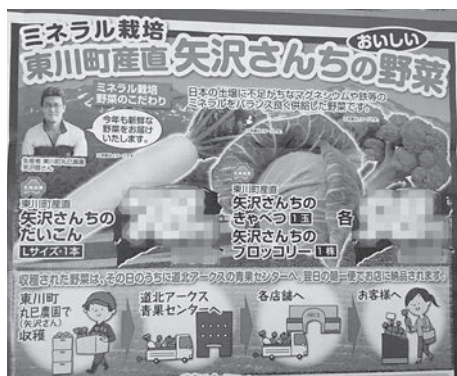
会社概要

株式会社丸巳

水田 120ha 畑 250ha

栽培品目 米、大根、ブロッコリー、人参、キャベツ、南瓜、スイートコーン、馬鈴薯、白菜、みつば、アスパラ、カリフラワー、ニンニク、椎茸

<http://www.farm-marumi.co.jp>



絶対においしいものをお届けしたいんです。「おいしさ」のためにできることって本当にいろいろあるから、私の挑戦は終わりませんよ！

お店で「東川産直 矢沢さん家

の〇〇」を見かけましたらぜひ食べてみてください。とってもおいしいですよ。よろしくお願いします。



卒業して五十年

風間 昶 (北高16期生)

旭川北高校を昭和四十一年に卒業して、此のたび同窓会から御招待をいただき、いまさらながら五十年の年月を経過していることに、感慨をおぼえます。当時の私たちは、一学年で普通科九クラス・家政科一クラスの一〇クラスあり、五〇〇名を超える大集団でした。

個人的なことですが、高校入試直前の、中学三年の冬休みに、先生から勧められて同級生のKさんと、三・六街の一角にあるすし店に、無謀にも一〇日間の住み込みアルバイトをしてしまいました。幸い、二人とも無事に、合格ほつとしました。入学してからは、昭和三十五年に初めて甲子園に出場した野球部に憧れて、野球をやりたいと担任の上田先生に相談したところ、「野球を選ぶか? 目指している大学への勉強を選ぶか?」一撃のもと、勉強にいそむべしとの言葉に、反論する勇気がありませんでした。転勤してきた新任の村上校長の進学に対するすさまじいまでの執着と、それに呼応するかのような数学の担任の姿勢が、それからの三年間、私を縛りつけていたような気がします。

高校時代の楽しい思い出はいろいろありますが、平成四年の第二十七回北高同窓会で、同期生の皆さんから推挙され実行委員長をさせて頂き、更に楽しい思い出を作ることが出来ました。同窓会の歴代会長はじめ、役員の諸先輩たちを訪問、ご挨拶をして回りました。高校時代に、一言も話を交わしたこともない友が、輪を広げてくれたり、多くの諸先輩の方々が北海道だけ

でなく、東北、東京、大阪などにも連絡をしてくださったりで、同期生百余名が実行委員として参加し、同窓会総会・懇親会を成功裏に終えることが出来、感無量でした。平成四年七月二十五日の参議院議員選挙で、思いもしなかった五十万七千七百十七票を獲得し、北海道選挙区第一位で当選させていただきました。同期、同窓の皆さまの御手配、御配慮のお陰と心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。高齢社会の真ただ中、団塊の世代のパワーを期待されているようです。まだまだ社会の担い手として、卒業五十年同期、力を合わせて頑張らしましょう。



同窓生から



同窓生から

●北高1期 寺林 靖夫

●北高10期 舟田 正義

●北高20期 瀬川 明男

●北高44期 安田 佳史

北高誕生秘話

寺林 靖夫
(北高1期)

私が中学校へ入学したのが、昭和20年4月である。8月に日本は終戦となり、勉強どころでない生きるための苦難が続く。当時の思い出に「野球場が農園となり、いもやかぼちゃがなっていた」など信じられない事でしょう。

昭和23年に市立中学校3年生の時、市立高校の併置中学の名称だったと思う。修業年数もアメリカ並の6・3・3・4制度に変更された。

24年には高校の改革が検討され、通学区域に従った学校となる。

旭高、市高、庁女、市女の4校を1校減らし3校でスタートする方向となった。

それぞれの学校に1校削減をいかに進めるかは難題だったことと想像出来る。

市議会に傍聴に行くなど仲間での心配が続いた。これらの結果、

市立女学校がなくなり、中学校として使用されることとなった。(現在の北都中学校)

東高・西高・北高の3校で26年度より新体制の旭川の普通科高校が始動した訳である。4月が準備期間で、この間に例えば男子校に無い女子トイレを設置するなど多忙だった。5月からはじめての男女共学、美しいきれいなマドンナ達を思うと胸がときめいた。

それぞれに立ち上げた部活動を推進、開校記念文化祭を盛大に行い、前庭の芝生でのフオークダンスに満足でした。

修学旅行はアンケートの結果、過半数に達せず、企画不可能にまだ安定しない生活を読み取れます。山岳部主催の上川の浮島は雨の中だったがいまだに記憶に残っています。

北高1期は1年間の短期に関わらずエキスの濃い学生生活を経験させて頂けた。

北高は先生も生徒も全力投球

舟田 正義
(北高10期)

卒業から半世紀が過ぎ、来年には私も後期高齢者の仲間入りとなるが、旭川北高は人生にとって大事な存在・通過点であった。今でも親しく付き合っている数人の友人は北高時代に知り合った人たちだ。

50年以上も前のことであるが北高在学中、記憶に残ることが二つある。

ひとつは、楽しい思い出。「君はスタルヒン球場のマウンドに立ったことがあるか」とお聞きしたい思いがある。当時、学年対抗・クラス対抗の全校ソフトボール大会があり、2年のとき私のクラスは決勝まで進んだ。

決勝戦は現在のスタルヒン球場(当時は市営球場、マウンドの位置はほぼ同じだと思う)で行われ

同窓生から

た。私はピッチャーで今も鮮明に覚えているのだが、スタンドからやや離れているマウンドまで大きな声援（特に女子生徒）がはつきり聞こえたことだ。声援に力が入ったが、試合は3年生のクラスに負け準優勝だった。非常にめずらしい体験をさせてもらった。野球のマウンドに立つ高校野球やプロの投手は特別にラッキーな選手たちと思えてならない。

ふたつ目は「勉学」についてである。私にとって高校3年間は勉学に追われっぱなしであったといえる。特に同じクラスに大変な秀才がいて、例えば「日本国憲法の前文を英語でそらんじる」など、みんなを驚かせていた（後にこの人は東大教授になった）。北高は先生も全力投球で熱心に教えていただいたと思うし、私の同期の仲間も進学や就職に一定の自信と誇りを持って時代を乗り越えていった。

我が「北高はたち会」



瀬川 明男
(北高20期)

私たち20期は「はたち会」という会を2年に1度催している。

2年に1度と言うのは、同窓会で集めた剰余金が底をついてきたので、10年程続いた毎年開催を変更したからだ。

28歳の時、私が脱サラ、帰郷してきたので仲間で飲み会をした。何回か集まるうち、理科系クラスも集まって飲む会があるらしいと言うので、どうせなら皆でやろう、というのが「はたち会」のそもそものスタートだった。

そして、45歳になったら同窓会を仕切らなくてはならないと言う情報が入って、40歳の時には徐々に準備を進めた。そして本番の会には百名を超える同期が集まった。そんなはたち会の一端を6年前の第15回から紹介します。

「卒業40周年の集い」会長挨拶

2009/10/3

於…ロワジュールホテル

さて、今夜は、卒業40周年の集いを発案した東京支部から14名の仲間が、そして道内も、札幌支部、小樽、北見からとたくさん駆けつけてくれました。

ありがとうございます。

楽しく愉快なひとときを、この古巣で過ごしていただきたいと思っています。

ところで、皆さんは北高の卒業アルバムを、まだ大切に持っていますか。

私もこの間、松下君の要請で、引っぱり出してみました。少しかび臭くなっていました。

クラスごとに寄せ書きが載っています。

「若者は行く」とか「また逢う日まで」とか当時の歌のタイトルそのまま。あるいは「人生とは」「真理は…」とか哲学もの。そして「愛情」「友情」について…。

「こんなのかよっ」てのは、

「少年よ大志を抱け、俺は女を抱く」ってやつ。

まったく高校生の分際で…誰だ？

そんな中にひっそりと丸文字っぽいがありました。

「全ては孤独だ。だから全ては友でありたい。」と。

なかなか、達観した言葉だなと感心しました。

40年前からすると、今は携帯やインターネットがコミュニケーションの手段となり、群れることから、個々ばらばらの、個の時代になってきています。

お互い干渉されることを嫌い、個人情報保護法により、かわりを持つことも難しくなりました。

大原麗子さんのように一人寂しくこの世を去る人も増えました。つまり、パーソナルな「個」ではなく、ロンリーな「孤」が確実に増殖しているのです。

そう考えたとき、この「全ては、孤独だ。だから全ては友でありた

い」という願いは今こそ、大切な言葉だなと感じたのです。

わが北高はたち会は、まさに「友」というネットワークでつながっています。

そこに孤独な人は一人もいません。永遠に大切にしたい会だなどと思います。

そんな訳で、連絡先の変更があったら、必ず事務局の畑君に連絡してください。

孤独になってしまいます。

さて、宴会では、思い出の「卒業アルバム」からスライドを流す予定です。

ホームページで活躍してくれている松下君の渾身の作です。

見逃してもいいようにCDも作りました。

今日の記念にお持ち帰りいただくと幸いです。

ちなみに、有料です。募金価格でお願いします。

挨拶長くなりました。

今日は、飲み放題です。どうぞ

思う存分楽しんでください。

（ちなみに、達観した寄せ書きは18才の私が書いたものでした。）

我が母校、旭川北高



安田 佳史
（北高44期）

旭川北高等学校を卒業して、約20年が経ちました。現在中学校の教員をしている私にとって北高で過ごさせていただいた期間はとても大切なものでした。私は二回、北高で過ごさせていただいています。

一回目はもちろん高校生の時です。私は、保護者の転勤の関係で富良野市立樹海中学校からその当時五パーセント枠での受験をしました。必死で勉強し、北高に合格できた時の喜びは今でも覚えています。そして、最初の一年間は一学期は東鷹栖の祖父母の家から北

高に通い、二学期からは下宿となりました。二年生からは、両親と共に旭川で暮らすことになりました。ですが、私にとって強く印象に残っているのは、高校一年生の思い出です。

新しい環境に戸惑いながら、毎日六時半に東鷹栖を出発し、自転車です。北高に通っていたことは今でも記憶にあります。将来、教員を志望していた私は、北高等学校では、とにかく学習に力を注いでいました。北高の恩師は、とても丁寧に私に指導してくださったことを覚えています。

二回目の北高での生活は臨時職員としてです。高校卒業後、私は旭川教育大学に進学しました。そして、教育大の修士課程を履修中に、北高等学校の臨時職員として地学の授業をさせていただきました。母校で勤務しながら、恩師に教員採用試験の学習も指導していただきました。その時の温かいご指導は今も鮮明に心に残っています。その年から、教員採用試験で

学力検査での一次試験と面接の二次試験が行われるようになりました。厳しい試験に自分が合格できたのは、臨時職員として勤務し、授業をしながら教員採用試験の学習をさせていただいた北高の先生方のおかげです。本当に感謝しております。これからも、北高の同窓生であることを誇りに思い、生活していきたいと思っています。

今春の 進路状況

進路指導部 (全日制)

中林 信也

平成二十六年年度の卒業生は、単位制導入後、七回目の卒業生になりました。

単位制の進路指導では、一年次より、将来を見据えて、大学で何を学びたいのかを具体的に考えさせることから始まります。また、道内外の大学による進路説明会や出張講義などの実施、オープンキャンパス等への積極的な参加の奨励などが特徴としてあげられます。

この年次は、一年次のときから、細野年次主任を中心に、学習指導、進路指導に積極的に取り組む、着実に実力を伸ばしてきた年次です。教科ごとの模試分析はもちろん、生徒の学習へのモチベーション維持の

ために、毎日学習記録による生徒個々の状況把握と言葉かけを三年間継続したり、「新聞スクラップリレー」の継続により、「自分の考えを言語化すること」「他者の考えを知る」とによる思考の深化をはかったりし、細やかな指導を実施し、進路実現に向けて指導を進めてきた年次でした。

今春の大学入試センター試験では、二年続けて難化した「国語」が易化し、その分、数学ⅡBが難しくなり、本校は昨年度と比較すると、文系でマイナスイポイント、理系ではプラス二点という結果となりました。また、理科では地学以外で得点調整が行われ、多少の混乱も見られました。全国平均では、文系が昨年を八点上回った結果であっただけに、本校生の文系には厳しい結果となりました。

本校の最終的な大学入試の結果は、一二年〇名が国立大学の現役合格を果たし、六年ぶりに在校生の過半数の合格者を出す結果となりました。これは、年次の早い段階

から、大学に関する情報を広く収集し、大学の説明会にも積極的に参加し、自分の目標を早くから持つて、それに向かって努力し続けた結果と考えています。難関大では二年連続で京都大学現役合格を果たし、帯広畜産大の獣医学部、富山大学の薬学部、また文系でも東京外大、筑波大学に合格しました。年々道外からの合格者を増やしている北大にも一三名が現役合格し、浪人をあわせると一七名となり、たいへん健闘したと言えます。

以下には昨年度の合格者の表を示しました。単位制になり国立大学への進学者を増やしてきましたが、進路学習を進める上で、特徴的なカリキュラムを持つ、私立大学への志願者も出てくるようになりました。今後ともきめ細かい進路指導を推進し、生徒個々の生き方を大事にした進路選択を支援していきたくと考えています。過年度の合格状況につきましては、北高のHPをご覧ください。

難関国立大、医学科合格者数（現役）

大学名	H14	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
北大（文系）	1	9	8	7	2	3	3	2
北大（医理系）	5	13	6	8	12	3	7	11
旭医大（医）			2	1		3		
東北大		2		3	3		2	
筑波大	2	1	1	1	1			1
一橋大			1	1				
東京外国語大		1			1			1
名古屋大					1			
京大		1	1				1	1
大阪大					1			
計	8	27	19	21	21	9	13	16

【私立大学合格者数】（現役+過年度）

大学名	H22	H23	H24	H25	H26
藤女子大	12	11	8	15	5
北星学園大	7	9	15	18	12
北海学園大	36	29	34	21	44
天使大	5	1	6	3	3
北海道薬科大	3	2	7	6	5
酪農学園大	2	2	5	4	4
北海道医療大	8	17	19	12	15
日赤北海道看護大	1		2	1	5
北海道文教大	13	7	11	13	6
獨協大	4	5	2	1	
青山学院大	5	5	3	1	5
学習院大	1	1		1	
慶應義塾大	3			1	
国際基督教大	1				
駒澤大	3		2	3	1
上智大		1	3		
専修大	2	4	1	2	3
創価大	4	2	2	6	1
中央大	10	9	8	8	8
津田塾大	1	1	1		
東海大	3	4	3	3	3
東京農業大		5		3	2
東京理科大	3	5	4	3	3
東洋大	3	2	4	3	5
日本大	4	3	4	2	5
法政大	5	7	3	5	9
明治大	5	2	3	2	7
明治学院大	3	1	2		3
立教大	1	1	6	2	3
早稲田大	1	1	3	3	1
神奈川大	4	2	5	3	2
京都女子大					
同志社大	1	3	2	1	1
同志社女子大		1			
立命館大	1	2	1	3	6
関西大		1			1
関西学院大		1	1	3	2
その他	49	54	66	46	79
私立大合計	201	204	236	217	249

【公務員・民間就職合格者数】（現役）

種類	H22	H23	H24	H25	H26
国家公務員	1			1	1
道職員	3	1	2	1	
市町村職員	4			3	2
他の公務員	2	6			1
民間就職	1			1	0

【国立大学合格者数】（現役+過年度）

大学名	H22	H23	H24	H25	H26
北海道大	16	15	11	12	17
北海道教育大	29	22	19	24	30
室蘭工業大	5	7	4	3	7
北見工業大	2	4		4	4
小樽商科大	8	3	3	8	5
帯広畜産大		1	3		1
旭川医科大	5	6	9	2	5
弘前大	9	8	13	6	8
岩手大	1	1	1	3	6
東北大	3	3		2	1
秋田大		3	1	1	
山形大	1	1	4		6
福島大	1				
茨城大		1	1		
筑波大	1	1		1	1
宇都宮大	2		2		
埼玉大	2		6		2
一橋大	1				
電気通信大	1		2		
東京学芸大			1		
東京工業大				2	
東京外語大		1			1
東京農工大	1	1		1	1
横浜国立大	2	1	1		
新潟大	4	7	7	12	7
金沢大		6			3
信州大	2	2	1		3
静岡大	3	1	3		3
名古屋大		1	1		1
京都大				1	2
京都工芸繊維大				1	
大阪大		1			
奈良女子大	1				
神戸大			1		
広島大		1	2		1
高知大					2
琉球大			1	1	
札幌医科大学	1	2	1	3	
公立はこだて未来大		4	1		2
釧路公立大	3	5	6	7	2
札幌市立大	3	2	4	2	1
名古屋市立大	2	5	5		5
高崎経済大	4	1		3	2
国際教養大					
首都大東京		2	1		
横浜国立大	1	3	2		2
都留文科大	1			1	
神戸市外国語大	1	1		1	
その他	3	7	11	8	10
国立大合計	115	130	125	113	141

※旭医大医学科 H22(2)、H23(1)、H24(3)、H26(2)

平成26年度 進路別人数 卒業生の進路

区 分				合 計			前年
				男	女	計	
卒業 者 数				120	120	240	240
進 学 希 望 者 数				115	119	234	235
進 学 者 数				102	108	210	198
進 学 先 内 訳	大 学	国公立	道 内	38	28	66	56
			道 外	30	20	50	28
		私 立	道 内	18	22	40	44
			道 外	14	20	34	44
	短 大	国公立	道 内	0	1	1	0
			道 外	0	0	0	0
		私 立	道 内	0	7	7	3
			道 外	0	0	0	1
	専 門 学 校	大 学 校 等		0	0	0	3
			看 護	2	8	10	7
				0	0	0	0
			その他	0	1	1	5
就職	公 務 員		1	0	1	3	
		民 間	0	1	1	1	
自 営： 家 事 手 伝				0	0	0	0
その他(未定を含む)				16	12	28	38

国立大学現役合格者数及び1クラスあたりの平均合格者数

卒業年度	H14	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
学級数	8	6	6	6	6	6	6	6
合格者数	93	125	103	98	106	104	91	120
人／クラス	11.6	20.8	17.2	16.3	17.7	17.3	15.2	20.0



●野球部

現在、3年生16名、2年生13名、1年生16名、1年マネージャー2名の47名で活動しています。新チームで臨んだ昨年の秋季大会では屈辱的大敗を喫し、悔しさを胸に冬季練習で基礎基本の徹底に取り組みました。まだまだ不十分で春季大会では結果を出せませんでした。夏の選手権大会では、一戦必勝で勝ち上がり、3度目の甲子園を目指して頑張ります。

●ソフトテニス部

今年度は3年生4名、2年生6名、1年生6名の計16名で活動しています。新入生には全国大会経験者もいることで、上級生にもいい刺激となっており、活気のある活動ができています。高体連では団体戦で3位、また1ペアがベスト8となり、近年は出場できていなかった高体連全道大会への切符をつかむことができました。まずは、全道大会で納得のいくプレーができるようチーム全体で全力を尽くします。どうぞこれからも温かく見守ってください。よろしくお願いたします。

高体連支部予選結果
団体戦3位

決勝トーナメント

準々決勝 ○旭川北 2-1 旭川明成

準決勝 ×旭川北 0-2 旭川商業

3位決定戦 ○旭川北 2-1 旭川西

個人戦

大川・富永組 ベスト8

●テニス部男子

旭川北高男子テニス部は現在、3年生16名、2年生10名、1年生9名の35名で活動しております。先日、高体連を終えて3年

生は全道進出を果たせませんでした。出場した選手はそれぞれ自分のテニスをやり切り、後輩達にしっかりとバトンを渡すことができました。

現在、1・2年生19名の新体制で秋の新人戦に向けてスタートを切ったところ。道のは長いが、目標に到達するためには必要な努力を考え、全員で乗り越えていきたいと考えています。

●テニス部女子

女子テニス部は、先日行われた高体連支部予選で、団体戦は3位にとどまり全道大会出場は果たせませんでした。

しかし、個人戦シングルスでは昨年に続き優勝、しかも1年生が優勝というすばらしい結果を残してくれました。

3年生は、全道大会出場はならず引退となり、新チームは1年生のみ6人（うち初心者5人）ですが、2年間かけてレベルアップさせようと考えています。1年生は、非常に意欲的で今後が楽しみです。

●男子バレーボール部

今年度は、選手・マネージャー合わせて13名の入部があり、総勢24名で活気あるスタートを切ることができました。高体連で全道出場をかけた富良野高校戦では、1セット目が23-25、2セット目が26-28という大接戦となりましたが、残念ながら勝利することはできませんでした。しかし、最後まであきらめないプレーは見ている人たちに感動を与えることができたと思います。昨年度の新チーム結成時には、なかなか勝つことができませんでした。着実に力をつけ、選手権大会と新人大会では、全道出場を果たしました。1回戦を勝ち上がり2回戦では、とわの森三愛高校や東海第四高校の強豪校と対戦することができました。このことは、チームにとっていい経験になったと思っています。新チームも決して強くはありませんが、3年生が最後の大会を終えた時に、バレーを続けてきて良かったと思えるような部活を目指して頑張りますので、応援よろしくお願いたします。

〈大会結果〉

◇バレー祭（4月19日）

1回戦 旭川北 2-0 旭川高専

準決勝 旭川北 0-2 旭川凌雲

3・4位戦 旭川北 0-2 旭川工業

◇旭川支部春季大会（4月25・26日）

1回戦 旭川北 0-2 旭川凌雲

準決勝 旭川北 0-2 旭川工業

3・4位戦 旭川北 2-0 富良野

◇高体連旭川支部予選会（5月27・29日）

予選グループ戦

旭川北 2-0 美瑛

決勝トーナメント戦

旭川北 2-0 富良野緑峰

決勝リーグ戦

旭川北 2-0 旭川工業

旭川北 0-2 旭川実業

旭川北 0-2 富良野

1勝2敗で第3位

●女子バレーボール部

今年度は、3年生7名、2年生3名、1年生7名の計17名で活動しています。昨年10月の選手権予選では2年連続でベスト4に残る事ができました。しかしシード校の壁は厚く、なかなか3位に食い込む事は難しい状況です。それでも諦めずにレベルアップを目指し、合宿や練習試合に取り組んできました。5月に行われた高体連支部予選会では決勝トーナメントに進出しましたが、シード校にあたる前に旭川西高に競り負けてしまいました。この悔しさをバネに更なる実力向上を目指し、しっかりと練習に励んでいきたいと思っています。

◇バレー祭

1回戦 旭川北 2-0 旭川西

2回戦 旭川北 0-2 旭川商業

◇旭川支部春季大会

1回戦 旭川北 0-2 旭大高

◇高体連旭川支部大会

予選グループ戦

旭川北 2-0 旭川藤女子

決勝トーナメント戦

旭川北 0-2 旭川西

●サッカー部

サッカー部は3年生の多くが抜けた後、現在1年生14人、2年生20人、マネージャー15人の計39人で活発に練習しています。高体連では、2回戦で旭川南、3回戦で旭川商業を破り、準決勝まで進みましたが、昨年に続き旭川東に0対1と惜敗し全道大会出場を惜しくも逃しました。しかし、最後まで選手は諦めることなく、持てる力を出し切って全力で戦いました。まだまだ、力不足である点をしっかりと受け止め、今回の悔しい思いを忘れず、更に高い目標に向かって進んでいきたいと考えています。

3年生のほとんどは今大会で引退してしまいましたが、このチームに残してくれたことはたくさんあります。それらを大事にして、また新しいメンバーと北高サッカー部の歴史を刻んでいきたいと思っています。応援よろしくお願いたします。

平成27年度 第68回北海道高等学校サッカー選手権大会 旭川支部予選大会結果

1回戦 旭川北 0対0 旭川南

2回戦 旭川北 0対0 旭川南

3回戦 旭川北 1対0 旭川商業

準決勝 旭川北 0対1 旭川東

(PK 5対3)

●卓球部

高体連旭川支部大会の結果は、男子学校対抗戦で第3位、女子学校対抗戦は予選リーグ敗退で全道大会出場はなりません。しかし、個人戦では男子ダブルスで長谷川・宍戸が第3位、男子シングルスで金尾が第3位、長谷川がベスト8で全道大会出場を決めました。

◇高体連旭川支部予選結果

・男子学校対抗戦予選トーナメント

旭川北 3-2 留萌

旭川北 3-2 留萌千望

・男子学校対抗戦決勝リーグ

旭川北 0-3 旭川東

旭川北 0-3 旭川実業

旭川北 1-3 旭川工業

男子ダブルス

長谷川・宍戸 第3位

金尾 第3位、長谷川 ベスト8

●バドミントン部

バドミントン部は男子15人、女子22人の計37人で活動をしています。男女ともに仲が良く、どんな辛い練習でも協力し、毎日明るく練習に取り組んでいます。

今年も、顧問の先生をはじめ、OBやOG、大学生や実業団選手の方々など多くの方々の応援とご支援をいただき、新人戦全道大会では男女ともに団体戦出場を果たし、女子団体ではベスト8という結果を残すことができました。また、高体連全道大会では女子が団体戦に出場することができました。

今後、より一層練習に励み、より良い成績を残せるように、そして一番の目標であるインターハイ出場を目指してみんなで切磋琢磨して日々努力していきたいと思っています。

【主な大会結果】

高体連支部大会および各種全道大会
北海道高等学校新人大会

平成27年1月15日～18日 釧路市

男子団体 北北海道 2回戦敗退

女子団体 北北海道 ベスト8

◇高体連旭川支部大会

平成27年5月20日～22日

男子団体 旭川市 第3位

女子団体 旭川市 第2位

男子複 磯部・馬場 ベスト8

女子複 小川・森木 2回戦敗退

大柄・安達 1回戦敗退

細谷・小西 ベスト8

小松・片淵 ベスト8

山田・原田 1回戦敗退

磯部 ベスト8

小川 ベスト8

馬場 2回戦敗退

細谷 ベスト8

小中 ベスト8

小西 3回戦敗退

●剣道部

現在剣道部は新入生男子2名を加えて男

子7名、女子マネージャー1名で活動しています。少ない部員ですが先輩たちが築いてきた伝統を受け継ぎ、「全道優勝」を目標に、「人間形成」を目的に日々練習に励んでいます。凛とした姿で活刺と活躍できる剣道部を目指しています。勉強と部活動は支え合うのではなく、それぞれ強くなる道は同じであるという考えのもと、生徒にはきりかえをしつかりして高校生活を充実させて欲しいと思っています。

今年のチームは、人数もぎりぎりですがチームを組むのがやとですが、北高剣道部の伝統を守るために必死に頑張っています。その結果、連覇はなりませんでしたが、新人戦でもなんとか全道に出場することができました。北高で剣道をしたと思うてもらえるように、これからも魅力的な剣道部づくりを目指して頑張っていきたいと思っています。

日頃から北高の活動を支えてくださっている方々にこの場を借りてお礼申し上げます。これからもご支援、ご声援のほど、よろしく願います。

・高体連旭川支部大会

男子団体 3位

・国体予選全道大会出場（三浦）

●陸上競技部

今年の北高陸上競技部は、総勢42人と、道内でも有数の規模で活動しています。人数の多さもさることながら、選手一人一人の士気も高く、先般行われた高体連旭川支部大会では、男子5000m競歩において3年生が大会新記録で優勝するなど、札幌で開催される全道大会に向けて、順調な滑り出しとなっています。

全道大会では、一人でも多くインターハイ進出者を出すことを目標に頑張ります。

●男子バスケットボール部

私達は今年度三年生十三名、二年生九名、一年生十一名、マネージャー四名の計三十七名の部員で活動しています。足立先生の指導の下、高体連ではこの四年間で三度ベスト4に入りましたが全道には後一步の所

で出場できていません。今年こそはと臨んだ高体連では、決勝リーグで旭大高には勝利したものの三位となり、またもや全道を逃してしまいました。当然新チームの目標は悲願の全道出場です。先輩達の悔しさをバネに日々の練習に取り組み、もつと力をつけて、走れるチームを目指して頑張ります。

●女子バスケットボール部

私達はブレイヤーが三年生七名、二年生六名、一年生三名、マネージャーが二名の合計十八名で活動しています。

一昨年は全道ベスト8まで勝ち上がりました。夢の全国大会に向け、『心をこめて』頑張ります。

○キシイカップ

○選抜旭川予選

○秋季大会

○新人旭川予選

○全道新人大会

○旭川地区春季大会

○高体連支部予選

優勝

二回戦敗退

優勝

一回戦敗退

準優勝

準優勝（全道出場）

●ソフトボール部

私たちソフトボール部は、高校から始めた初心者が多いのですが「打倒旭商！小野崎先生に勝利を!!」を目標に、顧問の小野崎先生、本田先生をはじめ、たくさんの方々に支えられながら、日々一生懸命練習に励んでいます。夏は、チーム数の少ない中、合宿や遠征で練習試合をして経験を積み、冬は個々の技術を上げるべく、バットを振ったり走り込んだりしています。

今年の高体連では、去年の高体連からスタメンで出場して活躍していたバッテリーの2人を中心とし、守備もバッテリーングも良く、前半は北高に良い流れを持つてくるものが出来ました。しかし後半、ここぞという時に決めることが出来ず、流れを旭商に渡してしまつて、惜しくも負けてしまいました。結果は2点差で悔しい思いをしましたが、良い試合が出来ました。先輩方は「努力を積み重ねればいつかは実る」ということを、私たち後輩に身を持って教えて

くれました。それは私たちにとって大変心に響くものとなりました。先輩方とううプレーが出来ないと思うとすごく悲しいですが、先輩方のような練習や試合に向かう姿勢、味方に対しての声かけ、団結力などを目指して新チームのみんなが頑張っていきたいと思っています。

新チームは1年生が去年より圧倒的に少なく、厳しい面も多々あります。そして、私たちの代では全道大会が旭川で行われるため、勝つても負けても全道に進むことが出来ます。ですが、私たちの「打倒旭商！」という目標は、ひとつも揺らぐことがありません。旭商を打ち負かして全道に進めるよう、チーム一丸となり、感謝の気持ちを忘れずに練習に励んでいきます。

実に打倒旭商へ走り続けます。

●山岳部

山岳部は男子9名女子1名で顧問の竹中先生、細野先生、及川先生と楽しく活動しています。

活動は土日の登山が中心で、春は残雪の山、夏は美しく一面に咲き誇る高山植物、秋には紅葉で赤く染まった山並み、冬はスキー登山と四季を通して活動しています。平日は週に二回の活動日を設け、ランニングを中心としたトレーニングと学習会を行っています。大会が近い時には、大会に向けた資料作成などを行うので毎日活動します。

今年度は、大雪や十勝の山、チトカニウシ岳などに登りました。昨年の夏合宿では、3泊4日の日程で戸別別川を遡行し日高幌尻岳、ピパイロ岳、伏見岳と縦走しました。川岸に TENT を張り、釣った魚を焚火で焼いて食べたのは良い思い出となりました。七つ沼カールで見た星空も忘れられません。学校祭の部局展示では今まで書きためた登山記録と写真の展示を行いました。

平成27年度の地区大会は十勝連峰の富良野岳と上ホロカメツク山で行われました。顧問陣も含めると総勢100名近くになり、大変にぎやかな大会となりました。北高は男子2パーティが参加しましたが、女

子はパーティを組めず研修隊として参加しました。北高は研修隊も含めて全員が大会コースを踏破しました。山岳の大会では体力や歩行技術以外に、読図・登山に関する知識・生活技術・パーティのまとまりなど様々なことが審査されます。男子は準優勝の成績で、樽前山と羊蹄山で行われる全道大会の出場権を得ることができました。全道大会では大会の雰囲気や他校との交流を楽しみながらも、北高の名に恥じぬよう好成績を残したいと思います。

●少林寺拳法部

今年度は、男子12名・女子11名、留学生1名の計24名で活動しています。昨年の新人戦では女子団体が2位になりましたが、6月の高体連全道大会では残念ながら入賞を逃しました。今年の新人戦では男女ともに全国大会に出場できるように今後も練習に励んでいきたいと思っています。

高体連全道大会

(6月6・7日 会場 札幌北陵高校)

＜男子＞

団体演武

佐藤③・岡本③・武田③・前田③・

長田③・千葉②・室山③・中山③組 出場

組演武 前田③・岡本③組 本戦出場

長田③・室山③組 本戦出場

単独演武 佐藤③ 本戦出場

中山③ 本戦出場

＜女子＞

団体演武

仲川③・開③・南③・國分②・井上②・

糸川②・野口②・山田②組 出場

組演武 仲川③・南③組 本戦出場

●アーチエリー部

アーチエリー部は3年男子3名、2年男子1名、1年男子5名、1年女子4名の13名で活動しています。年々、アーチエリー部に入学する生徒が減っていましたが、今年は9名の入学があり、今年の秋季大会から男女とも団体戦に参加できるようになりました。

6月17日から高体連がキロロリゾートで

行われます。ここ数年では、男子団体では決勝トーナメントに進み、最高で3位という成績になっています。現在、全国大会を目指し、練習に励んでいます。昨年度よりルール改正のため個人戦、団体戦ともセツトシステムが導入され、技術ばかりでなく、ますます精神力とプレッシャーに負けない気持ちがないと良い結果を出すことが難しくなりました。今後も練習を通して精神面の強化を進めています。昨年度より、シングルラウンドから70mラウンドに移行しています。旭川で開催される大会でシングルラウンドは道北ブロックだけとなりました。

●囲碁部

5月21日、22日に函館市花びしホテルで高文連北海道囲碁選手権大会が開かれました。

本校から2年渡辺が個人戦Aクラスに出場し、2年増茂が個人戦Bクラスに出場しました。

結果は残念ながら渡辺は一回戦での敗退、増茂は二回戦での敗退となりました。

●吹奏楽部

吹奏楽部は今年1年生14名を迎え、総勢54名で「聴衆に感動をあたらえられる演奏をしよう」を目標に部員全員が一丸となって精力的に演奏活動を行っております。現在は北高祭や吹奏楽団体コンクール、第40回定期演奏会に向け毎日練習に励んでいます。平成26年度の活動内容および成績
高文連上川支部音楽発表大会
吹奏楽発表部門出場

北海道吹奏楽団体コンクール旭川地区予選

高等学校A編成の部 銀賞

北海道個人・フサンブルコンクール旭川地区予選

クラリネット独奏 金賞 地区代表

クラリネット八重奏

金管八重奏

北海道個人コンクール

クラリネット独奏

第1回スプリングコンサート

(於：旭川市大雪クリスタルホール音楽堂) 主催

第39回定期演奏会

(於：旭川市民文化会館大ホール) 主催

北海道音楽大行進、アフターコンサート参加

末広地区ふれあいコンサート参加

校内活動

入学式、新入生歓迎会、野球応援、

北高祭、卒業式にて演奏



●美術部

今年度部員は1年生7名、2年生6名、3年生4名の合計17名(男子部員4名)となりました。ミーティングでは、今まで実施していなかった合宿や映画鑑賞会、人物デッサン会などの企画が提案されるなど前向きに、そして仲良くにぎやかに活動しています。5月の高文連実技研修会が終わり、現在は北高祭装飾の会議に部員が多く関わり、連日会議を行っています。例年通り北

高祭ボスターは美術部の作品が採用されました。北高祭終了後は高文連の作品制作に集中します。前年度は部員全員が全道大会出場を果たし、全国推薦もありました。今年も完成度の高い作品を仕上げてくれることを期待しています。

●音楽部

部員数は37名となりました。音楽部室は手狭ですが、軽音楽(バンド演奏)やマンドリンなど、精力的に活動しています。

活動は学校祭を中心に、図書館コンサートやクリスマスイベントライブなどで、主にJポップの曲を演奏しています。また学校祭では「テーマソング」も作っています。

●書道部

今年度は、3年生4人、2年生7人、1年生1人で活動しています。現在は学校祭の展示と高文連に向けて、各自作品制作に没頭しています。

大会後も作品鑑賞や他校との交流で学んだ事を活かして、日々、書道教室で理想の字を求め模索しながら練習に励んでいます。

春休みには上川地区校合同合宿に参加し、年度の締めとして、自分の力量を測ることも、合作や創作など、普段教わることのできない貴重な体験をしました。各々得たものも多く、充実した合宿となりました。

好きな時に自由に活動ができる北高書道部ですが、怠けることなく、積極的に講師の照井先生に教わりながら活動しています。

書道部は今後も、充実した部活動を発展させ、伝統文化の継承を担っていくという自覚を持って挑戦を続けていきます。

●演劇部

今年度は新入部員が4名(うち男子1名)入部。2年5名プラス3年3名の、合計12名で活動しています。5月30日に行われた、高文連上川支部演劇専門部「氷点華」(合同公演)では水上勉原作「ブンナ」が本校から出てこい」という作品を上演し、本校部員もキャストにスタッフにと活躍しました。入場者も多く、公会堂がほぼ満員で

した。本校の演劇も、ここ数年は自分たちで台本をつくるという方針が浸透してきましたが、学校祭では久しぶりに既成台本に取り組み予定。さまざまな要素をちりばめた、フルーツパフェのような芝居になりそうですというわけで、例年どおりの活動をしています。

●華道部

現在、三年生九名、二年生二名の計十一名で毎週水曜日に活動しています。

少ない活動ながら、立岩先生のご指導の下一人ひとりが着実に上達しています。稽古後は生けた作品を生徒玄関、図書室、音楽室前階段に展示し、たくさんの方にご覧いただきご好評をいただいております。

学校祭では稽古の成果を発揮するために、一段と団結して展示を創り上げます。普段より豪華な花材を使った個人の作品の他、部員皆で活けるセンターピースは豪華で迫力があります。ご来場の方々に楽しんでいただける花展になるよう工夫しております。毎年秋にはインターネット花展に出品し、出展作はウェブ上でご覧いただけるようになっております。作品を活け、写真を撮って応募する等、普段とは一味違う活動でとても勉強になります。機会がございましたら、池坊上のHPでは非私たちの作品をご覧下さい。

私たちは、先輩方から受け継いだ旭川北高華道部と日本の華道の精神を守り、次の世代と新しい伝統を築けるように活動していきます。

●茶道部

今年度は、一年生女子八名、二年生女子一名が入部しました。一年生八名、二年生五名、三年生五名、計十八名で活動しています。月曜日は技芸講師の立岩先生のご指導のもと稽古に励み、木曜日は自主練習で三年生が中心となり基本練習の席入や帛紗さばき等の割稽古を行っています。五月には、同門会の春の茶会に出席し、十月は同じく同門会の秋の茶会に出席します。なるべく積極的に、外部のお茶会に参加するよう

にしています。

学校祭は、日頃の活動成果を披露できる唯一の場です。四月から北高祭のお茶会に向け、より上達したお手前を披露するために、各々が時間をみつけてはお手前の練習に励んでいます。

三年生が学校祭で引退すると、八月からは二年生が中心となり、人数的には少し寂しい状況にはなります。その分一人一人の練習時間に余裕ができますから、充分な練習を積んで、歴史ある北高茶道部の伝統を受け継いでくれることを願っています。これからも茶道を通して人を心からもてなす精神を学び、心豊かな人間になれるよう稽古に励んで欲しいと思います。

●インターアクト部

私たちインターアクト部は、旭川北ロータリークラブのご支援のもと、ボランティア活動を中心とした様々な活動に取り組んでいます。

インターアクト部は、インターナショナルとアクションを組み合わせた造語で、国際的な視野に立ち、ボランティア活動を通して地域社会に貢献することを目的としています。毎週の定例ミーティングで、「自分たちができること」を部員同士で相談しながら、ボランティア活動に取り組んでいます。活動内容は次の通りです。これから頑張っていきたいと思いますので、よろしく願います。

①美化活動

- ・旭川冬まつり会場跡地の清掃活動
- ・春季・秋季ごみのポイ捨て禁止運動への参加
- ・校舎内の清掃
- ・学校敷地内および周辺のごみ拾い

②募金活動

- ・ペットボトルキャップ、リングブルの回収
- ・赤い羽根共同募金活動の実施ならびに赤い羽根共同募金活動への参加
- ・あしなが学生街頭募金活動への参加
- ・FNSチャリティー募金活動実施
- ③地域との関わり



④大会参加

- ・旭山動物園障害者と家族動物園特別鑑賞サポーターボランティア
- ・おびつた祭り参加
- ・障害者スポーツ記録大会
- ・旭川市障害者週間記念事業参加
- ・あったかいねあさひかわ
- ・旭川冬まつり会場観光ボランティア
- ・国際ロータリー第2500地区インターアクト地区大会
- ・高文連上川支部ボランティア研究大会
- ・高文連全道ボランティア研究大会

●文芸部

六名の卒業生を送り出し、今年度は女子二名の新入部員を迎え、各学年二名ずつの計六名で活動しています。

人数は縮小したものの、編集力のレベルは確実に上がり、毎年高文連文芸コンクールでの部誌部門では、高い評価をいただいています。そこには、卒業した先輩たちの北高文芸部への深い思いが大きな力になっていることは間違いありません。在学中には交流のなかった六代にわたる元文芸部員が、寄稿や、助言といったかたちで参加してくれる部誌が、私たちの誇りです。

昨年度は、昨年の全道の文芸コンクールで入賞を果たした三年生二名(岡本 恵田)が茨城県で行われる総合文化祭への推薦を受けて「散文(小説)」「詩」の分科会へ参加しました。また、全国文芸コンクール詩部門で優秀賞を受賞する(高田)という栄誉もいただきました。

今年度も、「書く」ことへの情熱や、編集へのこだわりをその背中であらわせた卒業生に続くべく、在席部員一同、切磋琢磨しながら、今できる最上の作品・部誌を作ることを目標に活動していきます。

○高文連全道文芸コンクール

- | | | |
|---------------|-----|-------|
| 詩部門 | 佳作 | 岡本美月 |
| 小説部門 | 佳作 | 高田実千穂 |
| 俳句部門 | 佳作 | 岡本美月 |
| 文芸部誌部門 | 金賞 | 岡本美月 |
| ○高文連全国文芸コンクール | 優秀賞 | 高田実千穂 |
| 詩部門 | | |

●放送局

昨年度のNHK全国高校放送コンテストには、朗読部門にて1名の進出を果たし、何とか前年度の雪辱を果たしたが、準々決勝にて敗退。番組に関しては全国に行けず。結果として「悔しい思い」を残してしまっただ。今年度は、3年生のいない年になる。2年生が奮起して、テレビとラジオのドラマとドキュメントを作成し、さらにはアナウンスと朗読部門にも参加する。過日行われた上川地区大会では、個人部門・番組部門

ともに他校の3年生と争いながら全て入選し、全道大会への進出を決めた。

テレビドキュメントでは、「北高体操」を扱った。北高生なら誰でもやったことがある、体育の授業の前の「あれ」である。考案者の一人であり、現在札幌市にお住まいの三栗先生のところに伺い、インタビューをしてきた。37年間の時を超えてなお引き継がれる魅力に迫った。ラジオドキュメントでは「旭川音楽大行進」を扱った。テレビドラマでは、人の好意のベクトルが見える少女を描いた「ベクトル」。ラジオドラマでは、混乱した心の中を清掃する業者を扱った「心の清掃員」。これらを手に、全道大会に挑んでくる。

放送の大会の難しいところは、敵が見えない事である。スポーツと違って、自分たちが直接関与して敵を倒すことはできない。ただ自分たちが「良いもの」を追求して、審査員に1点でも多く点をつけてもらうことしかできないのである。映像や音響の素材や効果、編集の巧みさなど、どの段階にも気の抜けない勝負となる。

個人部門では、「次」のステップを狙う。単に滑舌がよいだけではダメ。「話の内容が生き生きと伝わる発表」を実現するべく、各自のイメージの限界突破に挑んでいる。全国大会では「原稿」・「発声」・「滑舌」・「話し方」・「マイクの使い方」のいずれが欠けてもいけない。そういう意味では、年々水準が上がり続けているのだ。

放送に携わる全ての生徒の目標である「NHKホール（全国決勝）」を今年こそ果たしたい！と、一同が燃えています。

●写真部

こんにちは、写真部です。一年生4名が入部し、合計11名で活動しています。

今年は、体育系部活動におじゃまし、練習風景を撮影させていただき、それらの写真を中心とした作品を制作し、写真甲子園に参加・応募するといった活動を普段の活動に加えて行っています。

また、学校祭部局展示では、文芸部との

合同作品制作を企画し、自分の撮った写真に詩をつけてもらうことで、違った視点から作品を見つめることができるのではないかと、楽しみにしています。

今後、活動を通して、より良い写真を撮れるよう努力していきたいと考えています。

○26年度高文連上川支部写真展
最優秀賞（個人）・3位（団体）
○26年度全道写真展
入選（1名）・佳作（1名）

●生徒会執行部

北高の生徒会は、生徒による主体的な運営を目指し、日々の活動に取り組んでいます。新学期が始まってから夏まで、対面式・新入生歓迎会（4月）、生徒総会・リーダー研修会・支部大会壮行会（5月）、北高祭（7月）と生徒会行事が目白押しです。また、資料作成やリハールなど、放課後遅くまで残り、各行事の準備に多くの時間を割きます。どんなに準備に時間をかけても、いざ本番となると、見落としていたり、予期していないことが起きたりと、ハプニングがつきものですが、それでも行事を成功させた時は、何にも変えることができないほどの達成感や充実感を得ることができそうです。

また夏休み後すぐにある体育大会（8月）、「クリスマスイベント」（12月）の企画・運営は、1・2年生を中心に行います。

北高祭は今年で62回となり、露店が盛り上がるのはもちろんのこと、1年生の合唱とよさこい、2年生の演劇、3年生の展示はかなり定着してきました。一方で、再来年度入学生7クラスへの対応（北高グランプリ）、お互いのパフォーマンスの鑑賞、レベルの低下など、いくつかの課題も抱えています。まだまだ議論の余地があります。生徒会としては、伝統を残しつつ、北高祭が今後より発展するような案を出し合い、これらの課題に取り組むことが少しでもできればと思っています。

北高祭をはじめ、生徒会活動をよりよいものにすべく、これからも努力したいと思っています。

●理科実験研究部

こんにちは。まず始めに部員構成を紹介いたします。今年新たに一年生四人が加わり、三年生が五人、二年生が三人の合計十二名となりました。大人数となり、いつも楽しく明るい雰囲気が出ています。

次に活動内容を紹介いたします。一年生は基礎実験、二・三年生はグループを作り今秋の大会に向けて研究と実験を続けています。長期休暇中には、校外で公開実験と展示を行う予定になっています。毎年夏にはシヨッピングセンターで、冬には青少年科学館で実験をさせていただいています。大勢の方の前で実験をしたり、説明をしたりするのは大変ですが、同時にとても貴重なことです。その経験を大切にしていきたいです。

右も左もわからない一年生だった私たちも気がつけばあと一年と経たずに引退となります。直接お世話していただいた先輩方はもちろんのこと、先代の先輩が残してくださったもののおかげで大いに助けられました。私たちもこの理科実験研究部の一員として、多くのものを後輩に残していきたいです。

同窓会役員・幹事名簿

北三十九	北三十八	北三十七	北三十六	北三十五	北三十四	北三十三	北三十二	北三十一	北三十	北二十九	北二十八	北二十七	北二十六	北二十五	北二十四	北二十三	北二十二	北二十一	北二十		北十九		北十八		北十七		北十六	北十五	北十四	北十三	
幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	副幹事長	幹事長	副幹事長	幹事長	副幹事長	副幹事長	副幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	幹事長	
水口 貴浩	武田 要	高田 和憲	江洲 賢一	児玉 賢一	飛騨野文彦	武田 聡	澤田 俊哉	西分 健二	原田 一志	今宮 克明	持丸 昭郎	野村 寛	煙山 泰也	山内 一頼	小泉 英一	青山 隆之	菊地 一孝	石田 悟	林 仁彦	鳴海 範子	植村 俊幸	池田 定博	庄司 和晴	石田由美子	大川 孝一	加藤 修	齊藤佐智枝	廣田 秀美	横山 直史	小島大二郎	石田 邦光

北四十	幹事長	富樫 明樹	定一	幹事長	山崎 安光	定三十三	幹事長	窪田 竜二
北四十一	幹事長	村田 朋輝	定二	幹事長	小泉 貢	定三十四	幹事長	新見 稔
北四十二	幹事長	細山 崇	定三	幹事長		定三十五	幹事長	西尾 悟
北四十三	幹事長	下本 康子	定四	幹事長	谷口 省一	定三十六	幹事長	浅井 智希
北四十四	幹事長	山本 幸枝	定五	幹事長	小林 成吏	定三十七	幹事長	大橋 恵子
北四十五	幹事長	武田 奈央	定六	幹事長	金山 紘一	定三十八	幹事長	早川 立人
北四十六	幹事長	上北 泰志	定七	幹事長	森下 義治	定三十九	幹事長	細田 勝巳
北四十七	幹事長	長町 康隆	定八	幹事長	窪田 冠治	定四十	幹事長	遠藤 智康
北四十八	幹事長	松井 智弘	定九	幹事長	小野寺 勤	定四十一	幹事長	菅原臣 一郎
北四十九	幹事長	池田 謙治	定十	幹事長	小林 輝雄	定四十二	幹事長	岡本 香織
北五十	幹事長	阿部 好幸	定十一	幹事長	千葉青次郎	定四十三	幹事長	渡辺加代子
北五十一	幹事長	宇井 辰徳	定十二	幹事長	田村 篤	定四十四	幹事長	日野 洋一
北五十二	幹事長	大友 健司	定十三	幹事長	神藤 茂晴	定四十五	幹事長	
北五十三	幹事長	野田 仁哉	定十四	幹事長	松田 誠	定四十六	幹事長	白田 由佳
北五十四	幹事長	楠美 拓也	定十五	幹事長	深谷富美雄	定四十七	幹事長	
北五十五	幹事長	追山 和彦	定十六	幹事長	奥山 寿雄	定四十八	幹事長	
北五十六	幹事長	和賀 裕則	定十七	幹事長	錦川 敏文	定四十九	幹事長	
北五十七	幹事長	福森 翔太	定十八	幹事長	堀井 敏明	定五十	幹事長	
北五十八	幹事長	川西 雄太	定十九	幹事長	千村 敦雄	定五十一	幹事長	
北五十九	幹事長		定二十	幹事長		定五十二	幹事長	
北六十	幹事長	和賀 俊太	定二十一	幹事長	小柳 智弘	定五十三	幹事長	阿部 貴大
北六十一	幹事長	島田 沙理	定二十二	幹事長	菅野 敏彦	定五十四	幹事長	白河 卓也
北六十二	幹事長	佐藤 公耶	定二十三	幹事長	泉 誠	定五十五	幹事長	村岡 愛恵
北六十三	幹事長	丸尾 秀樹	定二十四	幹事長	柴田 仁		幹事長	村岡 愛恵
北六十四	幹事長	平岡はるな	定二十五	幹事長	川方 和人	定五十六	幹事長	船越 信幸
北六十五	幹事長	東崎 千晶	定二十六	幹事長	中原 泰司		幹事長	大野 春花
北六十六	幹事長	古澤 圭祐	定二十七	幹事長	山中 敏行	定五十七	幹事長	衛藤 顕太
北六十七	幹事長	渡辺 悠介	定二十八	幹事長	日塔 浩之		幹事長	辻 江梨花
北六十八	幹事長	金子ちひろ	定二十九	幹事長	太田 房枝	定五十八	幹事長	佐藤 健児
北六十九	幹事長	古屋 龍	定三十	幹事長	入野 直美		幹事長	及川 紗希
北七十	幹事長	下原みのり	定三十一	幹事長	上山山健次	定五十九	幹事長	川田 雄也
北七十一	幹事長		定三十二	幹事長	篠原 誠		幹事長	千葉 智生

幹事の皆様大変ご苦勞様です

◎各期幹事に異動がありましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

【自 宅】〒070-0876 旭川市春光6条2丁目4-2 田 中 充
TEL(0166)55-0931 携帯電話 090-7650-8061

【勤務先】 旭川市立忠和中学校 TEL(0166)61-5300



当 番 期

第50回 同窓会実行委員長

北高39期 水口 貴浩

昨年九月末に三十八期の先輩方から引き継ぎを受けてから早十ヶ月。本日はいよいよ「第五十回旭川北高等学校同窓会総会・懇親会」の開催日でございます。ご来場いただきました皆様、会券をお買い上げいただきました皆様、広告協賛にご協力いただきました皆様、誌面上ではございますが、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

実行委員会を立ち上げたものの、最初は何から始めていけばいいのだろうか?という疑問や不安を抱えながらスタートしたのを、鮮明に記憶しています。まずは、三十九期生同士の結束を固めようと、一月に同期会を開催したところ七十余名の同期生が集まり、久しぶりの再会や新たな絆が出来たことに喜びを分かち合いました。また、残念ながら出席できなかった同期生からも「八月の同窓会には出席いたします」「何かお手伝い出来ることがあれば声を掛けてください。」という有り難い言葉をもらい、改めて同期の繋がりの素晴らしさを実感いたしました。

月一回行なっていた実行委員会。私自身が旭川に居住していないということや、各々が社会的立場を確立してきているということも相まって、「集まる」こと自体もいささか難しい点がありました。が、忙しい中でも同期のメンバーと共に一つの事を成そうすることに、いつしか楽しさを感じるようになりました。

北高同窓会実行委員は、一生に一度しか経験出来ないこと。本当に良い経験をさせていただいたと感謝すると共に、今回の運営にあたり同窓会本部役員の皆様、各期幹事等の皆様、昨年の当番幹事期であった三十八期の先輩の皆様に、多大なお力添えと「大変だろうけど頑張っつね」と温かいお言葉をいただきましたことに重ねて感謝申し上げます。

結びになりますが、旭川北高並びに旭川北高同窓会の益々のご発展と、在校生と同窓生皆様のご健康、ご活躍を祈念申し上げ、当番幹事期代表のご挨拶とさせていただきます。



次期当番期

第51回 同窓会実行委員長

北高40期 富樫 明樹

このたび「同窓会だより」に原稿を書かせていただくことになり、いよいよ来年は同窓会の当番期ということ、責任の大きさに身の引き締まる思いをしています。今年旭川北高同窓会が第50回という節目の年にあたり、旭川北高の持つ長い歴史をひしひしと感じずにはいられません。

自分たちの学年が在学していた時に、昭和から平成へと変わったことを思い出してみれば、卒業してから随分と年月が過ぎたことを実感いたします。しかし、どれほどの時間が過ぎても高校生だった時の記憶は色褪せることなく、鮮明に覚えているものです。

その学生時代の思い出の中に学校祭という大きなイベントがあります。クラスが一体となり、展示や演劇、部活動の出店など学校全体がまさにお祭り状態になります。今思えばなぜそこまで熱狂できたのか、若さゆえの情熱とはいえない不思議に思うところでもあります。また、自分の中にもそのような熱い思いがあったことにも驚きを感じます。毎日夜遅くまで学校に残

り(あまり良いことではありませんが)、友人たちとイベントの成功に向けて協力し、いろいろな問題点が噴出しようとも、失敗も成功も全てが楽しい思い出となっています。そのことはどれだけの時間が過ぎようとも、今でも友人たちと会えば、当時の思い出で盛り上がり。後輩たちにも言わずもがなではありませんが、存分に楽しい思い出を作ってくださいませ。様、老婆心ながら思わずにはいられません。

このように思い返してみますと、同窓会の実行委員会というものも規模は違えど、学校祭のときに心に灯した熱い情熱が蘇ってくるように高揚を感じます。もちろん出席者の方々のことを考えれば失敗などは許されませんが、来年からは次の50年、100年のための新しい第一歩となります。これからの旭川北高および北高同窓会の発展と、今年の同窓会の成功を心から祈念しております。また来年の同窓会へのご協力の程、宜しくお願いいたします。